

# 高等学校

## 保健体育指導ハンドブック

～保健体育に関する指導資料～

令和5年3月

佐賀県教育委員会

## はじめに

「10年ごとに学習指導要領が変わっているのに、学校現場での保健体育科の学習が旧態依然と変わらないのはおかしい」

20年ほど昔のことですが、全国の指導主事研修会で当時の文部科学省教科調査官が発言された言葉です。改訂された学習指導要領について、改定の背景や意図及び内容についてしっかりと理解したうえで、創意工夫した保健体育科の学習が展開されることが必要です。

今回の改訂では、予測困難な社会変化の時代を迎え「生きる力」をより具体化し、生徒を育むために「何のために学ぶのか」について教育課程全体を通して三つの資質・能力に整理されました。

高等学校では、令和4年度入学年次から年次進行で実施となり、小学校・中学校及び高等学校の教科の一貫性を踏まえた最終段階としての役割が求められています。

また、保健体育科の目標に掲げられている「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力の育成」の実現に向けて、「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を見出すことができる指導の充実が求められています。

本県では、これまでも学習指導要領の改訂に合わせて、解説書やハンドブックを発行し、改定の内容について分かりやすく示すとともに、学習指導案等を例示して保健体育科の学習に役立ててきました。本ハンドブックにおいても、これまで示してきた内容を生かしつつ、学習評価の信頼性や妥当性を高める「指導と評価の計画」の例を示しています。

さらに、保健体育科の目標の「生涯にわたって」という文言を具現化するために「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」、「共生の視点」、「12年間の系統性」を重視した具体的な実践例も紹介していますので御活用ください。

本ハンドブックを新しい学習指導要領が目指す「生きる力」を育む保健体育科の授業づくりの一助としてください。

終わりに、本ハンドブックの作成・発行にあたり多大なる御尽力をいただきました作成委員の皆さまに深く感謝いたします。

令和5年3月

佐賀県教育庁保健体育課

課長 松尾 広樹

本ハンドブックは、「単元指導計画」、「評価についての考え方」、「年間指導計画の立て方」など、授業づくりに必要な内容を掲載しております。巻頭には「単元の評価規準の設定」及び「学習の流れと評価機会」を掲載しておりますが、これは指導と評価に当たって必ず作成していただきたいという私たちの強い思いの表れです。佐賀県教育委員会 HP 内にフォーマットをアップしておりますので、是非御活用ください。

### 単元の評価規準の設定

表1 E 球技 入学年次の次の年次以降 評価規準と評価項目

指導と評価の計画【E 球技】			評価項目	
資質・能力	すべての単元の評価規準		その次の年次	それ以降の年次
知識	各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。		●	
	球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書き出したりしている。			●
	課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。		●	
	競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。			●
技能	ネット型	サーブでは、ボールをに変化をつけて打つことができる。		
		ボールを相手側のコートの守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。	●	
		ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができる。		
		変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。		
		移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができる。		
	連携した動き	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。		
		ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。		●
		チームの作戦に応じた守備位置から、捨ったりつないだり打ち返したりすることができる。		●
		ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。	●	
		相手の攻撃の変化に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。		●
仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることができる。				
思考力、判断力、表現力等	選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。			
	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。		●	
	チームや自己の課題を解決するための練習の計画を立てている。			
	練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。			
	練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。			●
	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。		●	
	チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。			
学びに向かう力、人間性等	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。		●	
	球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生産にわたって楽しむための関わり方を見付けている。			●
	球技の学習に主体的に取り組もうとしている。			●
	フェアなプレイを大切にしようとしている。			
	作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。			
一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。		●		
仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。			●	
危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。			●	

指導（評価）する内容を系統的かつ偏りなく配置する。

評価する項目に●

※技能については、ネット型のみを抜粋しておりますが、配布データには三つの型すべてが記載されています。

「表1の評価項目」に●をプルダウンで選択すると、自動で「表2 単元の評価規準」に反映されます。

表2 単元の評価規準（フォーマットでは、表3の評価機会の下に記載されます）

知	①	各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。
	②	課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。
技	①	ボールを相手側のコートの守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。
	②	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。
思	①	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。
	②	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。
	③	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。
態	①	一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。
	②	仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。



表3 学習の流れと評価機会

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
学習の流れ	0 場の準備 ・ 健康観察 ・ 本時の学習内容とめあての確認 ・ 準備運動															
	10	ティーエン オリエン (動画等を活用) ストローク確認 試しのラリー	○基本ストローク ・ドライブ ・クリア ・ハイクリア ・ヘアピン 態①	○基本ストローク ・ドロップ ・スマッシュ 技①	○基本ストローク (アップ&ドリル) フォーメーションの確認 (動画の活用) フォーメーションの活用 知① グラブルスベア メーションを 考える			○フォーメーションを考える① ・ローテーションの練習 思① 技②	○フォーメーションを考える② ・課題と解決方法を探る 知② 思②	○フォーメーションを考える③ ・グループで互いに指摘し合う 態②	リーグ方式会議 ↓ ○リーグ戦の実施 (例①) ・3パートのリーグ戦 ・パート別順位での入替 ・順位決定戦 (例②) ・全チーム総当たり ・上位チームによるプレーオフ ・上位チーム以外はプレーオフを盛り上げる運営					
	20		○サーブ ・ショート ・ロング ・ドライブ	○前後の組み立てラリー ①コート縦半分を使用し、前後は相手を動かす。 ②習熟度に応じてフライの種類を制限する。 思③	○入れ替わりゲーム ・得点や回数は各グループで決める *タブレットでの動画撮影 *考察	○ダブルスゲーム ・得点は各グループで決める *タブレットでの動画撮影 *モデルプレーの視聴 (電子黒板等) *考察										
	30		○簡易ゲーム ・4人対4人のラリーゲーム													
	40															
50	本時のまとめ ・ 振り返り ・ 次時の確認															
評価機会	知															
	技															
	思・判・表															
	態															

<作成のポイント>

(ア) 評価規準 (何を評価するか) を基に、指導内容 (何を指導するか) を決めます。

(イ) 指導内容を基に、指導機会 (いつ指導するか) を決めます。

(ウ) 指導機会を基に、評価機会 (いつ評価するか) を決めます。

(エ) 評価機会については、重点的に評価する時間としています。

※指導したことが身に付くであろう時間を想定して、評価機会を設定します。

また、各評価について以下の点を確認してください。

**技、態** ---▶ 技能の向上や態度の育成には一定の学習時間が必要なこと、主に観察によって評価を行うことから、一定の学習時間を設けてから評価をすることが考えられます。

**知、思** →▶ 学習カード等に記述した内容から評価の材料を得ることが想定されることから、指導した時間に評価をするなど、指導から時間を置かずに評価することも考えられます。

(オ) 形成的評価後も個別の指導を行うなどの手立てによって、その生徒の状況が改善できるようにし、改善された場合は再評価をしてください (総括的評価)。

(カ) 評価については、1時間につき原則一つを評価してください。(評価に追われて指導が疎かにならない)

(キ) 指導と評価を一体としてとらえ、指導したことを評価し、評価したことで教師の授業改善と生徒の学習改善につなげることが重要です。

学校や地域、生徒の実態等に応じて、これらのポイントを踏まえながら、「指導と評価の計画」の作成をよろしくお願いします。

# 目 次

はじめに

高等学校保健体育指導ハンドブックへの案内

## 1 学習指導要領のポイントと改訂について

- (1) 学習指導要領とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 学習指導要領改訂の背景
- (3) 学習指導要領改訂の基本的な考え方と要点
  - ①何ができるようになるか「資質・能力の育成、学習評価の充実」・・・・・・ 2
  - ②何を学ぶか「各教科の目標・内容」
  - ③どのように学ぶか「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」
- (4) 保健体育科改訂の趣旨及び要点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
  - ①「共生の視点」のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  - ②「12年間の学び」の系統性のポイント

## 2 学習指導計画について

- (1) 指導計画作成の意図と流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) 指導計画作成上の配慮事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- (3) 内容の取り扱いに当たっての配慮事項
- (4) 「指導と評価の計画」の作成手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
  - ①「年間指導計画」の作成
  - ②指導内容の共通化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
  - ③複数年次で指導する際のバランスよい指導
  - ④「単元の目標」の設定
  - ⑤「全ての単元の評価規準」の作成
  - ⑥「単元の評価規準」の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
  - ⑦「指導と評価の計画」の作成
  - ⑧実現状況を判断する目安について

## 3 授業実践事例

【体育編】

- A 体づくり運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- B 器械運動(マット運動)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- C 陸上競技(走り高跳び、ハードル走、やり投げ、走り幅跳び)・・・・・・・・ 25
- D 水泳・・ 31
- E 球技(サッカー、バレーボール、ソフトボール)・・・・・・・・・・・・・・ 37
- F 武道(柔道、剣道)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
- G ダンス・・ 67
- H 体育理論・・ 73

## 【保健編】

・ 現代社会と健康（喫煙、飲酒、薬物乱用と健康）	81
・ 安全な社会づくり（安全な社会づくり）	85
・ 生涯を通じる健康（思春期と健康）	89
・ 健康を支える環境づくり（食品の安全性）	93
4 学習指導案の作成について	
（1）体育作成例	97
（2）保健作成例	102
（3）各項目における説明	106
5 学習指導要領解説の読み方について	
（1）「内容のまとめり」についての理解	107
（2）単元についての理解	108
（3）各科目の内容についての理解	109
（4）記載内容の説明	110
① 体育	
② 保健	113
6 学習指導要領解説の理解と学習評価について	
（1）体育、保健の内容及び構成について	114
（2）学習評価について	116
（3）評価規準作成時のポイント・文末表現について	119
（4）観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括について	120
①「知識・技能」における観点別学習状況の評価の総括の例	
②観点別学習状況の評価の総括（5段階）の例	121
③学期をまたいで実施した体づくり運動の評価を2学期に集約する例	
（5）用語解説	122
7 引用・参考文献・サイト・アドレス	124

# 高等学校保健体育指導ハンドブックの案内

指導と評価の計画を作る  
→ 巻頭ページへ

学習指導要領の改訂について知りたい  
→ P.1へ

年間指導計画を作る  
→ P.8へ

高等学校  
保健体育指導ハンドブック

授業実践例  
→ P.13~P.96

～保健体育に関する指導資料～

学習指導案を作る  
→ P.97へ

令和5年3月

佐賀県教育委員会

学習指導要領解説の読み方  
→ P.107へ

学習評価について  
→ P.116へ

本ハンドブック及び指導と評価の計画表については、  
佐賀県教育委員会 HP よりダウンロードできます。

<https://www.pref.saga.lg.jp/kids/list01965.html>

(キッズ体カアップホームページ⇒先生方へ⇒体育・保健体育にかかわるリンク集)



# Ⅰ 学習指導要領の ポイントと改訂



# Ⅰ 学習指導要領のポイントと改訂について

## (1) 学習指導要領とは

- 「学習指導要領」とは、どの学校でも一定の水準の教育を受けられるよう、学校教育法等に基づき、文部科学省が教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を定めたもので、「学びの地図」としての役割があります。
- 「学習指導要領解説(以下、解説とする)」とは、校種・教科等ごとに学習指導要領の改訂の趣旨や内容について解説しています。

## (2) 学習指導要領改訂の背景

### ① 予測困難な時代の到来

生産年齢人口の減少やグローバル化や技術革新に伴う社会構造や雇用環境の急速な変化

### ② Society5.0 と呼ばれる新たな時代の到来

進化した人工知能(AI)や身近な物の動きがインターネット経由で最適化される IoT(Internet of Things)の拡大

### ③ これからの学校教育に求められるもの

「他者と協働して課題を解決する」、「様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして、新たな価値につなげる」、「目的を再構築することができるようにする」

## (3) 学習指導要領改訂の基本的な考え方と要点

今回の学習指導要領では、こうした状況を踏まえ、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示されました。

そこで、学習指導要領の学びのイメージを図1のように表し、これを実現するために教育課程全体や各教科等の学びを通じて子供の視点から①～③を構成していく必要があります。

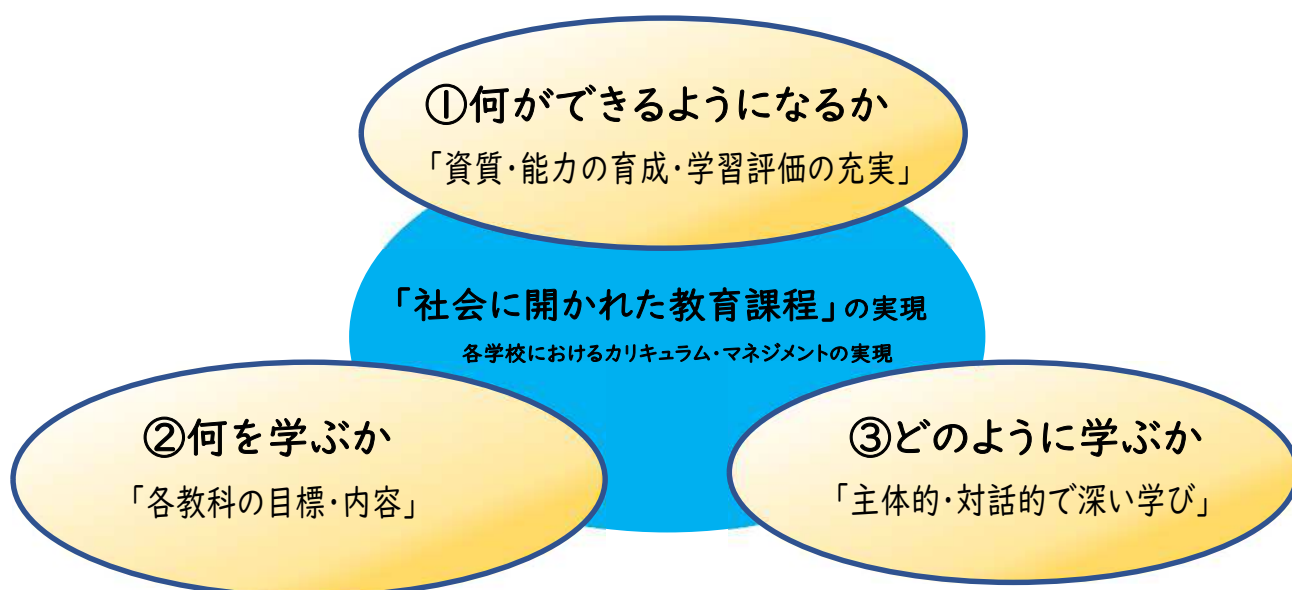


図1 学習指導要領の学びのイメージ

### ①何ができるようになるか「資質・能力の育成、学習評価の充実」

各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材を促すため、全ての教科等の目標や内容を三つの柱で再整理されました。

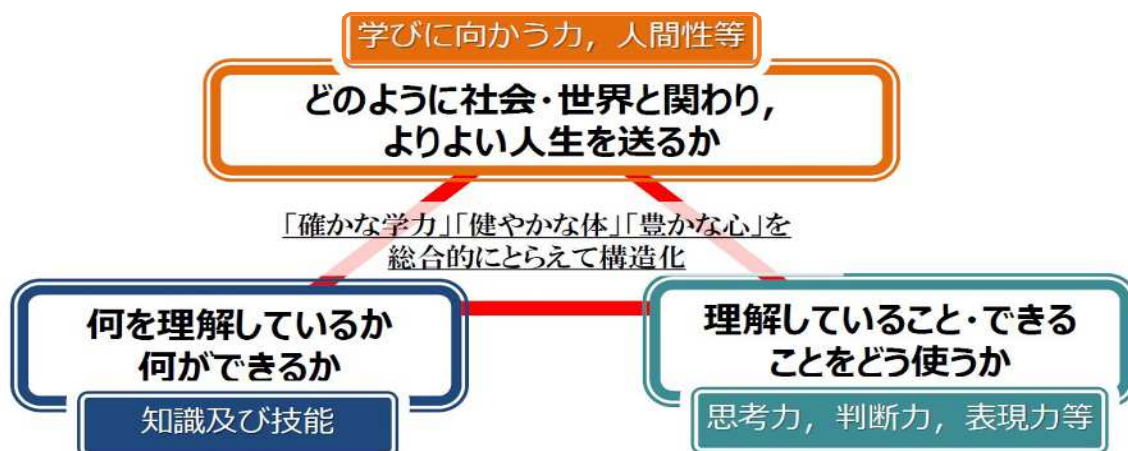


図2 育成すべき資質・能力の三つの柱

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校保健体育))より

### ②何を学ぶか「各教科の目標・内容」

図2で示した三つの資質・能力について、必要な指導内容等を検討する必要がある、保健体育科の目標を基に、保健体育とは何を学ぶ教科なのかを整理します。

また、各教科の「見方・考え方」は、その教科ならではの物事を捉える視点や考え方であり、本質的な意義の中核をなし、社会をつなぐものであります。そのことから、生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されます。

#### ○保健体育科の「目標」と「見方・考え方」

##### 【保健体育科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

##### 【体育の見方・考え方】

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」

##### 【保健の見方・考え方】

疾病や障害を防止するとともに、生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること」

### ③どのように学ぶか「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」

②で検討した内容について、「生徒がどのように学ぶか」という学びの質を重視した子供たちの具体的な学びの姿を考えながら授業改善を図っていく必要があります。(図3)



図3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について(イメージ)

(中央教育審議会、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について(答申)補足資料 2016)

解説には、すべての運動領域に内容の取扱いとして次のように示されています。

必要な知識及び運動の定着を図るとともに、互いに教え合う時間を確保するなどの工夫をしながら、生徒の思考を深めるための発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追求し、生徒の学習状況を捉えて指導を改善していくことが大切である。

その際、指導事項の精選を図ったり、運動観察のポイントを明確にしたり、ICTを効果的に活用するなどして、体を動かす機会を適切に確保することが大切である。

#### (4) 保健体育科改訂の趣旨及び要点

##### 趣旨

- ・平成21年改訂の学習指導要領では、知識や技能を活用した課題解決や、相手に分かりやすく伝えること等への課題。
- ・三つの資質・能力の育成を目標とし、小、中、高等学校を通じた系統性のある指導の必要性。
- ・生涯にわたる豊かなスポーツライフの継続、スポーツとの多様な関わり方の状況に応じた選択と卒業後の継続した実践。
- ・個人及び社会生活における健康・安全についての三つの資質・能力の育成の重視。

##### 要点

- ・豊かなスポーツライフを継続する観点から、資質・能力の三つの柱を踏まえた内容構造の見直し。
- ・小、中、高等学校の「12年間の系統性」を踏まえた指導内容の見直し。… ②のポイントを参照
- ・男女共習を原則とし、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず「共生の視点」を新たに踏まえて指導内容を示す。… ①のポイントを参照
- ・指導と評価の一体化を一層推進する観点から、解説において全ての指導内容で例示を示す。
- ・義務教育段階での学習内容の確実な定着を図る、学び直しの充実。
- ・「カリキュラム・マネジメント」の充実(3年間を見通した年間指導計画の作成、生徒の現状に基づく計画の作成、実施等、地域の人的・物的資源等の活用)。… 本ハンドブック P.8 年間指導計画を参照

①「共生の視点」のポイント

共生

体力や技能の程度、性別や障害の有無、目的等の違いを越えて、運動やスポーツの多様な楽しみ方を社会で実践することが求められる。

原則として男女共習

実施にあたり

- 運動種目によってはペアやグループの編成に配慮しましょう。
- 個々の生徒の困難さに応じた指導方法等の工夫をしましょう。

できない理由を探すのではなく「何ができるか」という視点で考えることが生徒の学びになります。  
 「共生」の意義や求められる背景などについて丁寧に説明をし、生徒とともに一歩ずつ着実に進めてください。

【障害のある生徒などへの指導 ～インクルーシブ教育システムの構築～】

- 高等学校の通常学級においても、発達障害を含む障害のある生徒が在籍している可能性があることを前提に、困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要です。
- 特に、保健体育科では、実技を伴うことから、全ての生徒に対する健康・安全への配慮が必要です。
- 指導に当たっては、生徒の障害の特性を家庭、専門医等と連絡を密にしながら的確に把握し、障害の有無にかかわらず、参加可能な学習の機会を設けるなど生徒の実態に応じた配慮が大切です。

②「12年間の学び」の系統性のポイント

単元の指導計画を立てる際には、小、中、高等学校までの12年間の系統性を踏まえた指導内容となるように考慮します。

解説では、運動に関する領域の内容には中学校段階との接続、内容の取扱いにあたっての配慮事項には、小学校5学年から高等学校までの系統表が示されています。（例:解説 P.93 陸上競技）

また、発達の段階を踏まえ、図4、図5、図6のように指導内容が体系的に示されています。

ア「体育の系統性」

小学校		中学校		高等学校			
1. 2年	3. 4年	5. 6年	1. 2年	3年	入学 年次	次の 年次	それ 以降
各種の運動の基礎を培う時期		多くの領域の学習を経験する時期		卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることができるようにする時期			
体つくりの運動遊び	体つくり運動	体つくり運動		体つくり運動			
器械・器具を使ったの運動遊び	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動	器械運動		
走・跳の運動遊び	走・跳の運動	陸上運動	陸上競技	陸上競技	陸上競技		
水遊び	水泳運動	水泳運動	水泳	水泳	水泳		
表現・リズム遊び	表現運動	表現運動	ダンス	ダンス	ダンス		
ゲーム	ゲーム	ボール運動	球技	球技	球技		
			武道	武道	武道		
			体育理論			体育理論	

図4 体育の指導内容の系統化

生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目標として学習内容が体系的に位置付けられています。高等学校の目標としては、「個人及び社会生活における健康・安全に関する内容」について「総合的に理解できるようにする」と示されています。(図5)

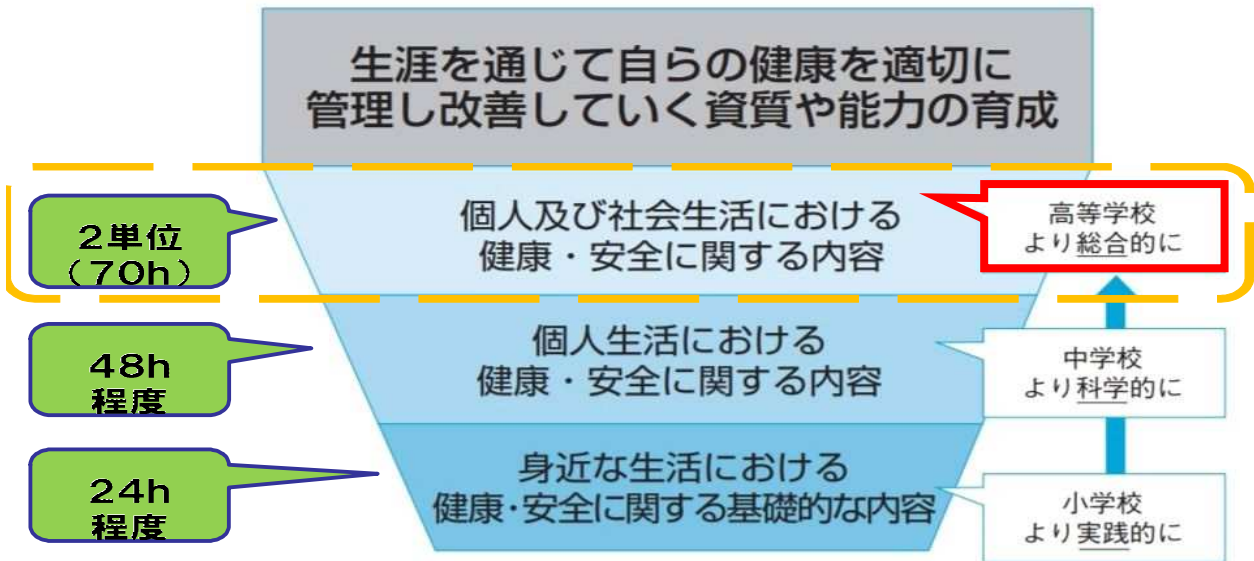


図5 保健における体系イメージ

「保健」の学習内容について、小学校から高等学校まで概ね同様の内容について系統的、発展的に学びを深めていくように構成されており、指導に当たっては、それぞれの発達に応じて指導を工夫することが求められています。(図6)

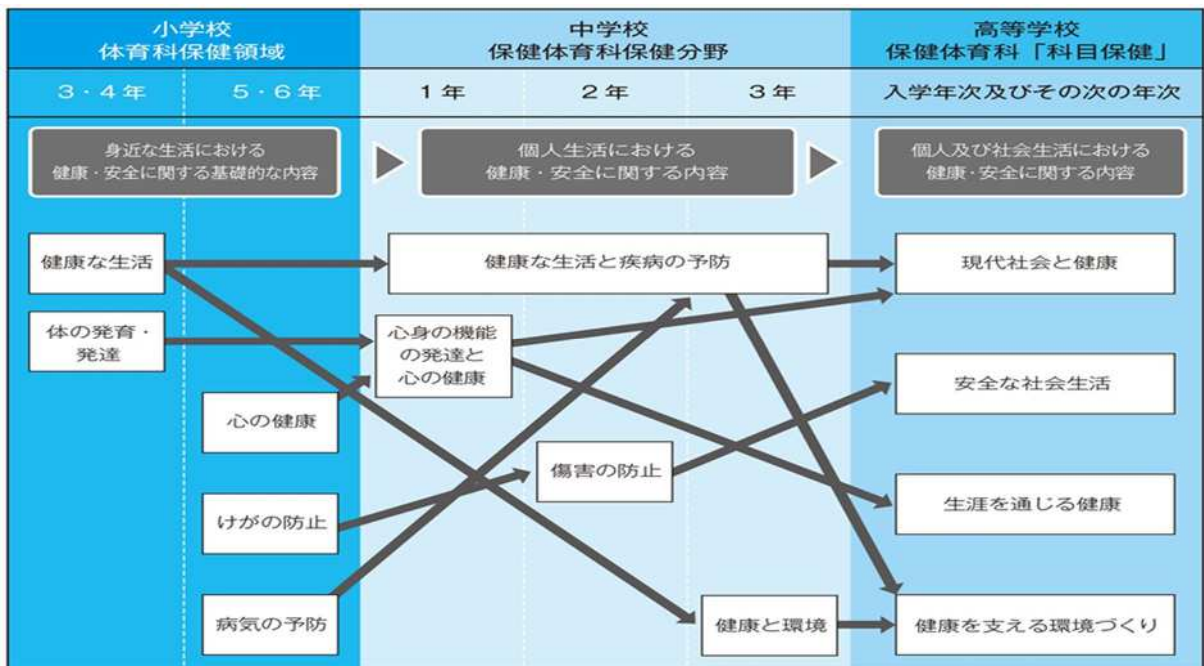


図6 保健における内容の系統性

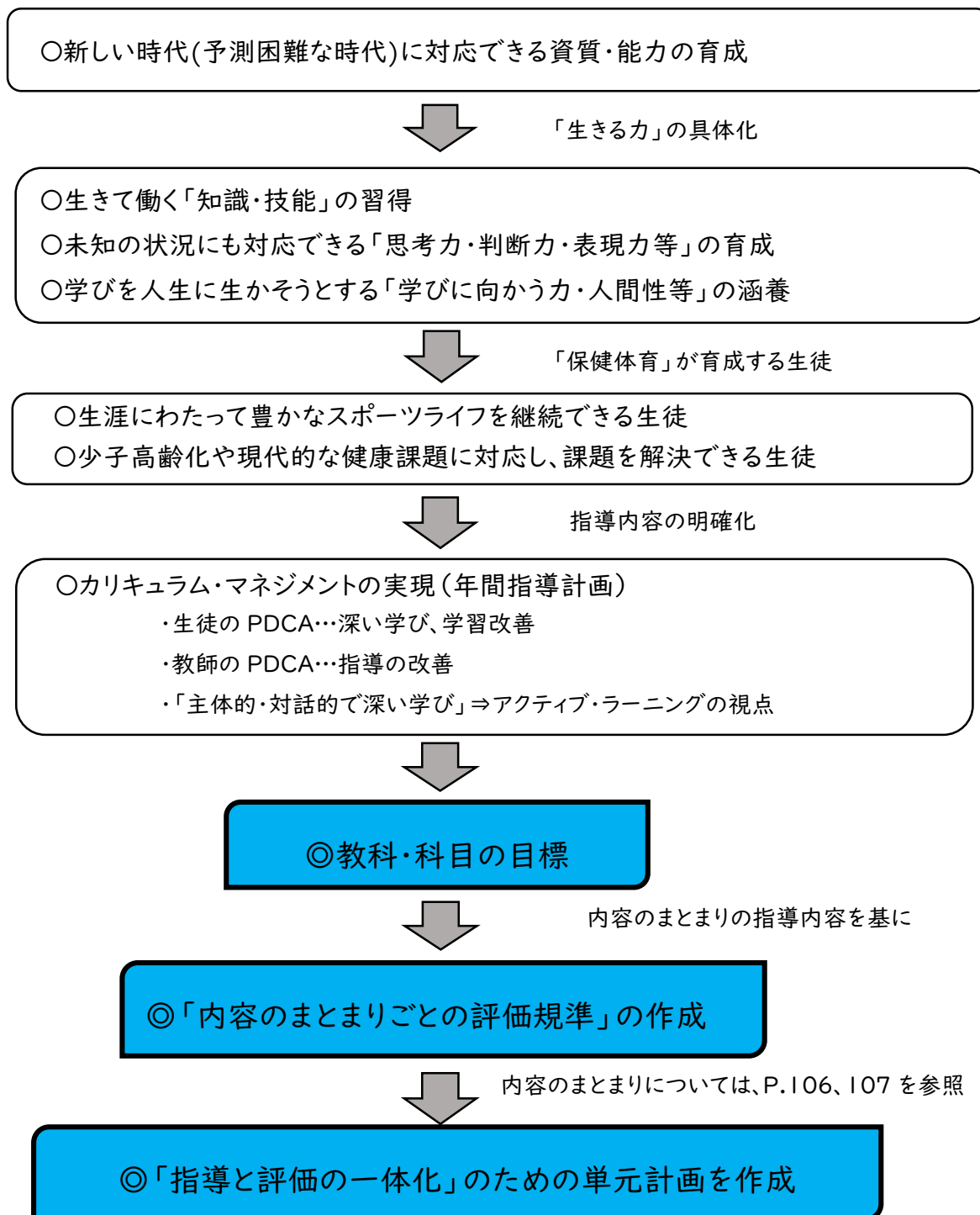
単元の指導計画を立てる際には、高等学校3年間の見通しだけでなく、小学校、中学校との接続や発達段階のまとまりに応じた系統性ある指導内容を考える必要があります。特に、高等学校は12年間のゴールにあたりますので、小学校や中学校の先生が高等学校の授業を見た際に、その授業や生徒の姿からゴールを目指して指導していることが分かるような授業づくりを行います。

## 2 學習指導計畫

## 2 学習指導計画について

### (1) 指導計画作成の意図と流れ

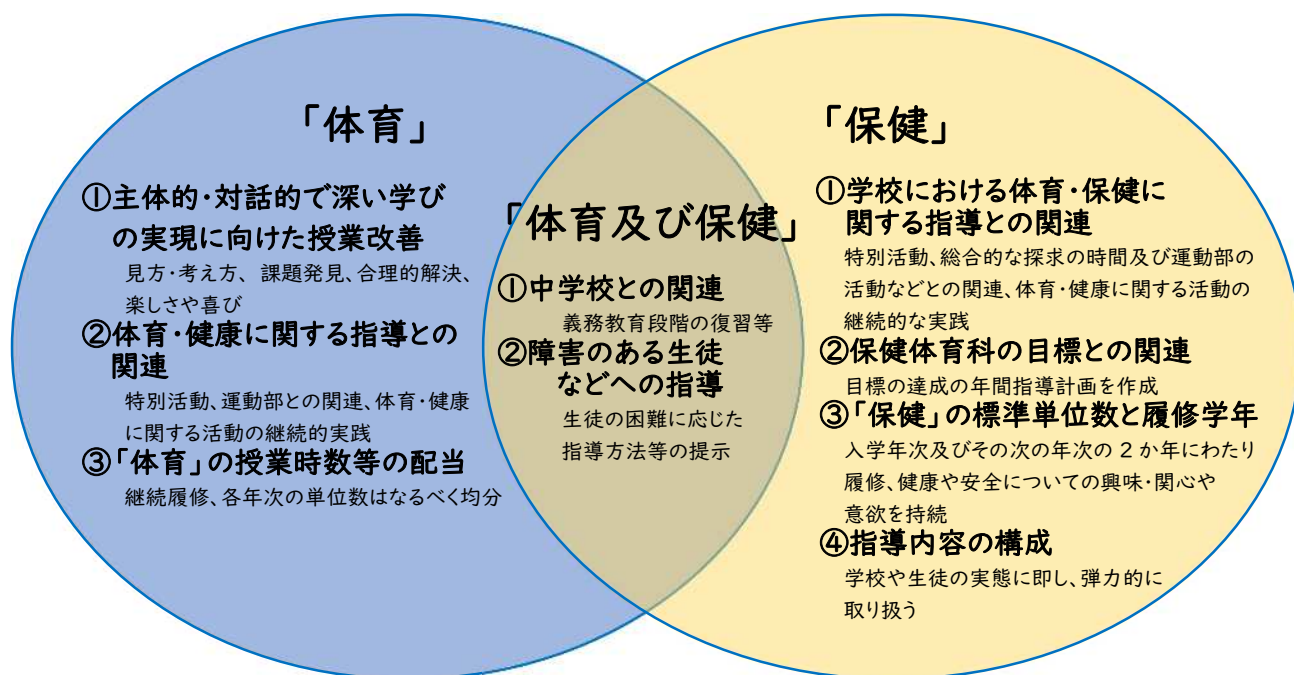
「新しい時代に対応する子供の資質・能力の育成」のために、生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが重要であります。これらの実現に向けては、以下のように三つの資質・能力を具体化し、指導内容を明確にするとともに「学習指導」と「学習評価」を一体として捉え、組織的かつ計画的に行い、単元計画を作成する必要があります。



全ての単元の評価規準及び単元の評価規準については配布フォーマットを活用して作成できます。

(2) 指導計画作成上の配慮事項

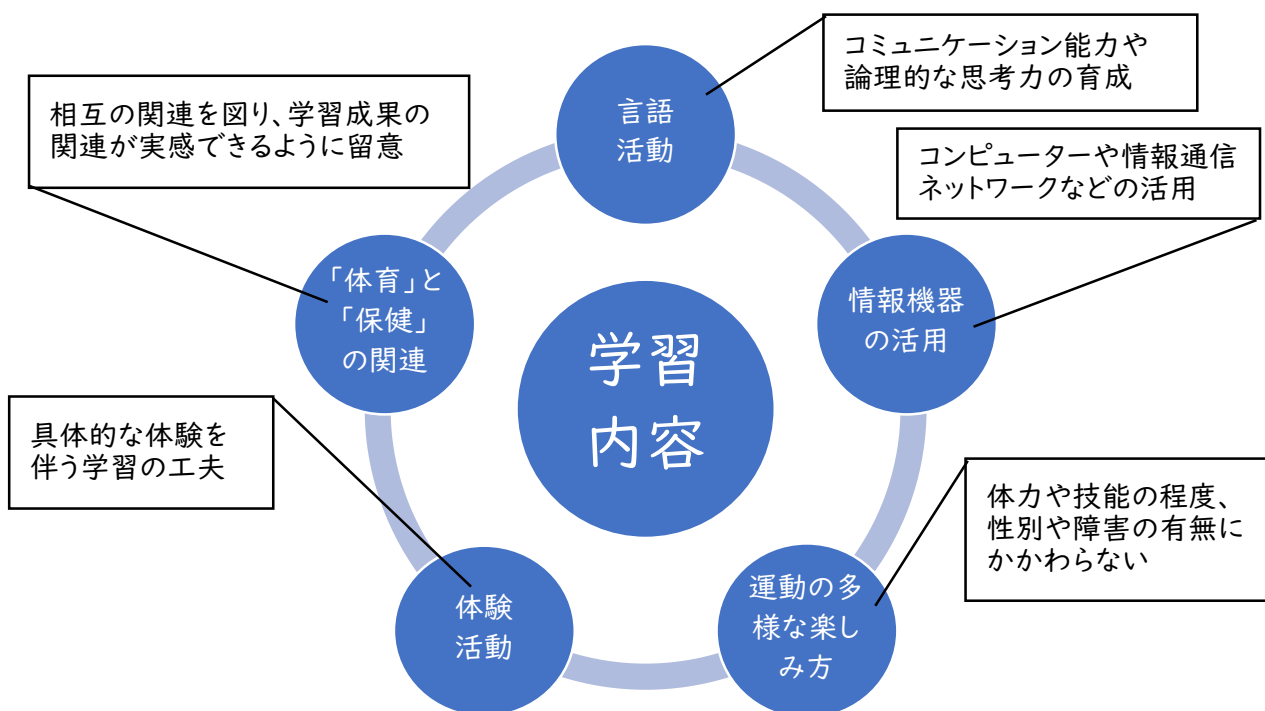
指導計画の作成に当たっては、「体育」、「保健」及び「体育及び保健」の各事項に配慮しましょう。



解説 P.217～P.224 を参照

(3) 内容の取り扱いに当たっての配慮事項

内容の取り扱いに当たっては、次の五つの事項に配慮しましょう。



解説 P.225～P.228を参照



(4) 「指導と評価の計画」の作成手順

【体育】

①「年間指導計画」の作成(カリキュラム・マネジメントの視点から計画)

年間指導計画は、3年間を通して育成を目指す資質・能力等を考慮し作成します。

また、生徒や学校、地域の実態を把握し、学校教育目標の実現に向けて、教科等横断的な視点で教育課程を組み立て、保健体育科を中心とした「カリキュラム・マネジメント」の視点から計画を作成します。

解説には、入学年次とその次の年次以降で内容のまとまりが示されています。

入学年次・・・1年次 入学年次の次の年次以降・・・2年次(その次の年次)、3年次以降(それ以降の年次)
--

表4 年間指導計画の例

科目	履修	学年	単位	4			5			6			7			9			10			11			12			1			2			3		
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
体育	必修	入学年次	3	オリエンテーション 体づくり運動(5)	体育理論(3) 【選択Ⅰ】(15) 陸上競技(走り高跳び・ハードル走) 器械運動(マット運動) ダンス(創作ダンス・現代的なリズムのダンス)	【選択Ⅱ】(15) 水泳(クロール・平泳ぎ) 器械運動(4種目から2選択) ダンス(創作ダンス・現代的なリズムのダンス)	体育理論(3) 体づくり運動(5)	【選択Ⅲ】(17) 球技ネット型(バレーボール) 球技ベースボール型(ソフトボール) 武道(柔道)	【選択Ⅳ】(17) 球技ゴール型(バスケットボール) 球技ネット型(テニス) 武道(剣道)	陸上競技(8) (長距離走)	【選択Ⅴ】(16) 球技ゴール型(サッカー) 球技ネット型(卓球) 球技ネット型(バドミントン)																									
		その次の年次	3	オリエンテーション 体づくり運動(5)	体育理論(3) 【選択Ⅰ】(15) 陸上競技(やり投げ・走り幅跳び) 器械運動(4種目から選択) 球技ネット型(テニス)	【選択Ⅱ】(15) 水泳(4泳法から2選択) 球技ベースボール型(ソフトボール) 球技ネット型(バスケットボール)	体育理論(3) 体づくり運動(5)	【選択Ⅲ】(18) 球技ネット型(バレーボール) 球技ベースボール型(ソフトボール) 武道(柔道)	【選択Ⅳ】(16) ダンス(現代的なリズムのダンス) 球技ネット型(サッカー) 武道(剣道)	陸上競技(7) (長距離走)	【選択Ⅴ】(17) 球技ゴール型(サッカー) 球技ネット型(卓球) 球技ネット型(バドミントン)																									
		それ以降の年次	2	オリエンテーション 体づくり運動(4)	体育理論(3) 【全領域選択Ⅰ】(18) 全領域、運動種目から実施希望アンケートを行い、希望の多い領域等を年間て配置する (例)・陸上競技(走、跳、投から選択)・球技ネット型・ダンス	体づくり運動(3) 【全領域選択Ⅱ】(18) 全領域、運動種目から実施希望アンケートを行い、希望の多い領域等を年間て配置する (例)・球技ネット型・球技ゴール型・武道	体育理論(3) 【全領域選択Ⅲ】(12) 全領域、運動種目から実施希望アンケートを行い、希望の多い領域等を年間て配置する (例)・球技ネット型・球技ゴール型	【全領域選択Ⅳ】																												
年間行事				新体力テスト	遠足(登山)	高校総体	期末考査	クラスマッチ	体育大会	中間考査	期末考査	クラスマッチ	校内持久走大会	学年末考査	クラスマッチ																					
保健	必修	入学年次	1	現代社会と健康												安全な社会生活																				
		健康の考え方(5)	現代の感染症とその予防(5)	生活習慣病などの予防と回復(5)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康(5)	精神疾患の予防と回復(5)	安全な社会づくり(5)	応急手当(5)																												
		その次の年次	生涯を通じる健康						健康を支える環境づくり																											
生涯の各段階における健康(8)	労働と健康(6)	環境と健康(6)	食品と健康(5)	保健医療制度・機関(4)	保健活動(3)	環境づくり(3)																														



※年間指導計画作成の際に踏まえる事項(作成時に確認すべき事項のみ掲載)

○「各科目にわたる指導計画と内容の取扱いの改善」 解説(P.18)

- ・「体育」は、各年次継続して履修できるようにし、各年次の単位数はなるべく均分して配当する。
- ・「H 体育理論」に対する授業時数については、各年次で6単位時間以上を配当する。(全学年履修)
- ・「保健」は、従前どおり、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修する。

○各領域の「内容の取扱い」 解説(各領域の最終ページに記載)

【A 体づくり運動】

・授業時数については、各年次で7~10単位時間程度とする。(全学年履修)

※2単位の学年では、7単位時間以上、3単位の学年では、10単位時間を目安として配当する。

#### 【B 器械運動】

- ・運動種目は、「ア マット運動」、「イ 鉄棒運動」、「ウ 平均台運動」、「エ 跳び箱運動」の中から選択して履修できるようにすること。
- ・入学年次においては、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」及び「G ダンス」のまとまりの中から1領域以上を選択し履修することができるようにすること。(C、D、G では同様のため省略)
- ・その次の年次以降においては、「B 器械運動」から「G ダンス」までの中から2領域以上を選択して履修することができるようにすること。(B から G まで同様のため省略)

#### 【C 陸上競技】

- ・運動種目の取扱いは、「ア 短距離走・リレー、長距離走、ハードル走」、「イ 走り幅跳び、走り高跳び、三段跳び」及び「ウ 砲丸投げ、やり投げ」から選択して履修できるようにすること。

#### 【D 水泳】

- ・運動種目の取扱いは、「ア クロール」、「イ 平泳ぎ」、「ウ 背泳ぎ」、「エ バタフライ」及び「オ 複数の泳法で長く泳ぐこと又はリレーをすること」の中からいずれかを選択して履修できるようにすること。

#### 【E 球技】

- ・入学年次においては、「E 球技」、「F 武道」のまとまりの中から1領域以上を選択し履修できるようにすること。(F では同様のため省略)
- ・取り扱う運動種目は、ゴール型については、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、ラグビーの中から、ネット型については、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ベースボール型については、ソフトボールを適宜取り上げること。
- ・入学年次においては、三つの型の中から二つの型を、その次の年次以降においては、三つの型の中から一つの型を選択して履修できるようにすること。

#### 【F 武道】

- ・運動種目は、「ア 柔道」又は「イ 剣道」のいずれかを選択して履修できるようにすること。
- ・なお、学校や地域の実態に応じて、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができる。

#### 【G ダンス】

- ・指導内容は、「ア 創作ダンス」、「イ フォークダンス」、「ウ 現代的なリズムのダンス」の中から選択して履修できるようにすること。

※履修できる運動種目の数については、特に制限を設けられていませんが、指導内容の習熟を図ることができるよう、十分な時間を配当することとされており、また、生徒の体力や技能の程度に応じて健康・安全の確保に配慮した上で、生徒が選択できるようにすることが大切であるとされています。

②指導内容の共通化 … 各単元において指導する内容を共通させる

高等学校においては、生徒自身が選択できるようにすることが原則であることから、選択した領域や領域の内容によって評価の格差が生じないよう、教師間で事前に検討し、共通理解を図ることが大切です。

表5 選択制授業における指導事項の共通化を図る例

指導事項		選択Ⅰ（その次の年次）			主な評価方法
		陸上競技 選択	器械運動 選択	球技 選択	
思考力、 判断力、 表現力等	・ 良い点や修正点を指摘する				学習カード
	・ 自己や仲間の新たな課題を発見する	●	●	●	
	・ 課題解決のための計画を立てる	●	●	●	
	・ 危険を回避するための活動の仕方を提案する	●	●	●	
	・ 役割を提案する	/			
	・ 活動を振り返り、よりよいルールやマナー（所作）を提案する		/		
	・ 合意を形成するための調整の仕方を見付ける	/	/		
	・ 楽しむための調整の仕方を見付ける				
	・ 生涯にわたって楽しむためのかわり方を見付ける				
指導事項の数		3	3	3	

③複数年次で指導する際のバランスよい指導 … 内容のまとまりにおける指導事項の重点的配

内容のまとまりごとの指導をより効果的・効率的に行うために、その次の年次及びそれ以降の年次で指導すべき内容を整理し、指導内容を系統的かつ偏りなく配置することが重要です。

表6 2年間を見通した指導事項の配置の例

指導事項		その次の年次			それ以降の年次			主な評価方法
		陸上競技 選択	ダンス 選択	球技 選択	陸上競技 選択	ダンス 選択	球技 選択	
学びに向 かう力、 人間性等	・ 主体的に取り組もうとする	※	※	※	●	●	●	観察 (学習カード)
	・ ルールやマナーなどを大切にしようとする		/		●	/	●	
	・ 伝統的な行動の仕方を大切にしようとする	/	/	/	/	/	/	
	・ 良い演技を讃えようとする	/		/	/	●	/	
	・ 互いに助け合い高め合おうとする	/	/		/	/		
	・ 自己の責任を果たそうとする	●	/	/		/	/	
	・ 合意形成に貢献しようとする	/	●	●	/			
	・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦 及び修正などを大切にしようとする				●	●	●	
	・ 健康・安全を確保する	●	●	●	※	※	※	
指導事項の数		2	2	2	3	3	3	

● 指導事項 ※ 評価対象とせず指導する事項 / 例示に示されていない事項

④「単元の目標」の設定

本事例では、内容のまとまりの指導内容をもとに、あらかじめ配布フォーマットに記載をしております。

⑤「全ての単元の評価規準」の作成

表1 指導と評価の計画を活用

解説には、入学年次とその次の年次以降の学習における「ねらい」や「具体的な指導事項」が示されています。それらを手がかりに解説の「例示」をもとに、内容のまとまりごとに「全ての単元の評価規準」を作成します。 ※作成については、P.119「6 学習指導要領解説の理解と学習評価（3）」または下記参考資料を参照

（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P.47）

⑥「単元の評価規準」の作成

表1 指導と評価の計画を活用

「全ての単元の評価規準」の中から、入学年次(1年次)では設定した指導事項、その次の年次以降では2年間を見通した指導事項の配置に対応した「単元の評価規準」を設定します。

⑦「指導と評価の計画」の作成

表3 学習の流れと評価機会を参考に作成

単元の指導内容や指導場面といった学習の流れ、観点ごとの評価機会を明確にし、観点別学習状況の評価の妥当性や信頼性を高めるために作成します。

⑧実現状況を判断する目安について

観点別学習状況評価の評価規準に対する実現状況を判断する目安と具体例を作成します。

実現状況を判断する目安を作成して評価することは、評価及び評定の信頼性、妥当性を確保するとともに、各観点における生徒の学習状況について具体的にその状況を捉え、指導の方向性や学習状況を改善する手立てを考えていくことにつながります。

また、評価するためには実現状況が読み取れる、見取れる工夫が必要です。「知識」や「思考・判断・表現」については、主に学習カードや入力フォームの活用や観察で行い、「技能」や「態度」については、主に観察で見取ることになります。

<実現状況の示し方>

A … 「十分満足できる」状況    B … 「おおむね満足できる」状況    C … 「努力を要する」状況

この3段階での評価については、保健や他教科でも同様です。

<実現状況を判断する目安と生徒の回答例>

◆【知識】 武道(剣道)

(評価規準) 試合の行い方には、簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。

実現状況	判断の目安	生徒の回答例
十分満足 (A)	学習した主なルールを基に、自己や仲間にあった簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について、簡易ルールが必要な意義や意図、理由やその効果も含め、具体的に記述している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の試合数や、自分たちの体力などを考えて、試合時間は、正式の半分まで2分、試合方法は1本勝負、広さは正式の半分で行う。</li> <li>効率的で安全に運営するため、試合がない班で、審判・時計係・記録係を決めておく。</li> <li>簡単なルールにしたり、試合時間を変えるのは、メンバー全員が楽しく試合できるようにする為に必要だから。</li> </ul>
おおむね満足 (B)	学習した主なルールを基に、簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について記述している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>試合時間、試合方法、試合場の広さ、試合形式(団体・個人)などを決める。</li> <li>審判、時計係、記録係を決めておく。</li> <li>試合をやるのに最低限必要な内容だから。</li> </ul>
努力を要する (C)	学習した主なルールを基に、簡易な試合でのルール、審判及び運営の仕方について記述されていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールを簡単にする。</li> <li>できる人が係を行う。</li> </ul>

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校保健体育))より

◆【技能】 武道(剣道)

(評価規準) 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つことができる。

実現状況	判断の目安	具体例(特徴的な動き)
十分満足 (A)	相手と接近した状態にあるとき、しかかけの動きから、隙ができた面を退きながら、よどみなく、強く打つことができる。	・迷いがなく、よどみのない動きに加え、強く打つことができる。 ・技に強さがあり、気剣体が一致している。
おおむね満足 (B)	相手と接近した状態にあるとき、しかかけの動きから、隙ができた面を退きながら打つことができる。	・学習した技の動きができ、タイミングよく打つことができる。 ・技の動きが連動し、打つことができる。
努力を要する (C)	相手と接近した状態にあるとき、しかかけの動きから、隙をつくることのできない。面を退きながらゆっくり打つことができる。または打てない。	・技の動きが連動せず、タイミングが合わずに打つことができない。 ・隙をつくり出せない。 ・技の動きがぎこちなく、打つことができない。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校保健体育))より

◆【思考・判断・表現】 保健(生涯を通じる健康)

(評価規準) 働く人の健康の保持増進のための職場の取組について、課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。

実現状況	判断の目安	判断する生徒の姿
十分満足 (A)	働く人の健康の保持増進のための取組について、学習したことを基に、自分たちの生活や社会問題と関連付けて、具体的な改善方法等とそれを選択した理由について説明している。	・健康づくりの取組が実効性のあるものとするための理由を説明している。 ・単に優良事例を取り入れるだけでなく、従業員の健康状況等に合わせて改善した取組を選択し、その理由を説明している。 ・事例の問題点を解決するための具体的なかつ効果的な取組例と、それを選択した理由について説明している。
おおむね満足 (B)	発言内容やワークシートの記入内容から、課題解決方法や、それを選択した理由を見取ることができる。	・実現性や実効性のある取組を考え、説明している。 ・他のグループの発表や企業の優良事例で取り入れられている取組であることを理由として説明している。 ・具体的な根拠は示されていないが、事例の問題点を改善する必要があることを理由として説明している。
努力を要する (C)	発言内容やワークシートの記入内容から、課題解決方法や、それを選択した理由を見取ることができない。または記述がない。	・課題の記述が抽象的である。 ・課題を設定した理由が示されていない。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校保健体育))より

◆【主体的に学習に取り組む態度】 球技(サッカー)

(評価規準) 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

実現状況	行動の仕方のキーワード	想定される様相
十分満足 (A)	・行動が定着している。 ・建設的に考えようとしている、気遣おうとしている。	・共生の意義や価値及び行動の仕方を理解し、個々の違いへの配慮や、可能な限り実現可能なプレイを行うなど、単元を通して共生の視点での発言や働きかけが安定してみられる。 ・ミスした時やうまくできなかった時に、一人一人の違いを踏まえて、自己や他者への建設的な発言や働きかけがみられる。 ・共生の意義及び自身の行動の仕方に対する具体的な記述が確認され、体力や技能の程度、性別などに関わらず気遣いがみられる。
おおむね満足 (B)	・知識規範に行動しようとする、受け入れようとする、思いを統制しようとする。	・実現可能な課題の設定や挑戦を大切にしようすることを理解し、他者との違いを受け入れている様子が確認される。 ・仕方なくという場面もみられるが、理解したことを基に互いのプレイの違いを受け入れている。 ・教師の手立てや自身の振り返りや他のグループとの意見交換などから、単元終盤では、互いの違いに配慮し思いを統制するなどして取り組む様子がみられる。
努力を要する (C)	・逃避しようとする、敬遠しようとする、無視する、あきらめる。 ・排除しようとする、嫌悪する、否定する、批判する。	・他者の立場や状況への配慮がなく、自己のプレイに固執し修正したルールを無視しようとする様子がみられる。 ・一人一人の違いが生じている状況でも、関わりを遠ざけたり、あきらめたりするなど消極的な姿勢が教師の働きかけの後もみられる。 ・共生への理解が生かされず、他者のプレイを排除したり嫌悪したりする言動や行為がみられる。 ・教師が働きかけを行っても、他者の意欲を低下される否定や批判などの発言や行動が継続する。

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校保健体育))より

# 3 授業実践例

体育編（運動）

体育編（知識）

保健編

別に資料を添付しております。

\* 各領域の授業実践例を掲載しております。執筆を担当した各委員の考えを尊重し、形式・内容を統一していない記載もあります。

## 4 学習指導案の作成

## 4 学習指導案の作成について

### (1) 体育作成例

第2学年 保健体育科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日（〇曜日）第〇校時  
指導場所 体育館  
指導学級 2年〇組（計〇名）  
指 導 者 教諭 T1 〇〇 〇〇  
教諭 T2 〇〇 〇〇

#### 1. 単元名 E 球技（バドミントン）

#### 2. 単元について

##### (1) 運動の特性

バドミントンは、ネットを挟んで相手と向かい合い、ラケット操作によって様々なストロークから緩急を使ったシャトルを打ち合い、空間を生かした攻防を仲間と連携して展開したり、得点を競い合ったりすることを楽しむ運動である。

##### (2) 運動の特性から見た生徒の実態

本校では、ネット型として、バドミントン、バレーボール、卓球、テニスを取り扱っており、各学年で多くの選択ができるようにしている。どの種目も選択希望者が多く、仲間と楽しみながら取り組むため、互いに協力して意欲的に活動できている。

1年次の様子では、技能の差は見受けられるものの、勝敗を競ったり、相手の技能に合わせたラリーを楽しんだりすることができ、生徒同士の前向きな声の掛け合いの雰囲気がある。

アンケートを実施したところ、楽しいと感じることは、「ラリーが続くこと」や「得点が多く決まること」と多数が回答し、難しいと感じることでは、「ラリーが続かない」や「遠くに打つことができない」、「狙ったところに打つことができない」との回答が多く、シャトルのコントロールへの関心に終始している生徒が多く見られた。空いた空間の攻防や状況に応じた仲間との連携など、ネット型のものつ運動の特性をさらに味わえるよう授業を進めていきたい。

##### (3) 運動の学び方

- ・めあてを基本動作など技術の習得として学習に取り組んでいる生徒が半数以上いる。
- ・仲間と連携しゲームを展開することで楽しむことはできているが、自己やチームの課題解決についての工夫や様々な違いに配慮した取組ができていない。
- ・学習ノートを用いて自己を評価することはできるが、その評価からの学びについて他者に伝えることができていない。

##### (4) 教師の授業への意図

授業の導入においては、基本動作など技能の定着を図りながら、狙った場所に打つことや緩急をつけて打つことなどを身に付けさせ、相手を意図的に動かしたり、惑わせたりする楽しさに気付かせたい。

また、課題解決やルール作りのための時間を多く確保することで、自他の動きや考えについて深く考えさせ、生涯にわたって運動を継続する資質を身に付けさせたい。

さらに、ICTを積極的に活用し、見本動画を参考に自分たちの動きの確認をしながら、動作の



ポイントやダブルスフォーメーションのイメージを持つなど、インプットとアウトプット、知識と技能の往還を図りながら、技能の習得につなげるとともに、他チームの良い点や改善点などを伝える手段としたい。

### 3. 単元の目標

- (1) 勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。  
イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己やチームの課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

#### ここまでの用語説明（体育編）

単元とは… 体育の場合、選択制授業においては複数の領域から選択した一つの領域の内容を単元と捉えます。

また、体育理論は、各年次の指導内容を単元と捉えます。

運動の特性とは… 単元の教材の特性（運動領域では、当該の運動やスポーツの特性）

①構造的特性… 運動の技術的な仕組みに注目した特性

②機能的特性… 運動の欲求や必要を充足する特性

※文章構成は、①、②を記載し、文末を「～して楽しむ運動である」に統一します。

生徒の実態とは… 生徒の普段の様子や当該の領域等における状況、既習状況やアンケートを通しての運動のイメージです。

運動の学び方とは… ここでの運動の学び方とは、以下の三つの観点から記述し、主体的な学習の進め方がどの程度身に付いているかを表しています。

①めあてを設定し、達成のための課題を持つことができる。

②活動を工夫しながら、精一杯活動ができる。

③自らの活動を振り返り、評価ができる。

教師の授業への意図とは… 生徒の実態、運動の学び方で明らかになった問題点を解決するためにどのように指導するかを表しています。

単元の目標とは… 当該学年で身に付けなければならない学習内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成すべき資質能力ごとに設定するものです。解説の                     にある指導内容を参考にしましょう。

また、語尾は「～ができるようにする」として記載します。

4. 内容のまとめりごとの評価規準 ※場合によっては省略することも可です。

説明①

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などについて理解している。</li> </ul>	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防することができる。</li> <li>ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって、空間を作り出すなどの攻防をすることができる。</li> <li>ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</li> </ul>

5. 全ての「単元の評価規準」 ※場合によっては、本単元で設定した「単元の評価規準」でも可です。

説明②

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、言ったり書きだしたりしている。</p> <p>②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・競技会で、ゲームのルール、運営の仕方や役割に応じた行動の仕方、全員が楽しむためのルール等の調整の仕方などがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>○技能</p> <p>〈状況に応じたボール操作や安定した用具の操作〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。</li> <li>①ボールを相手側のコートの守備のない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。</li> <li>ボールに回転をかけて打ち出したり、回転に合わせて返球したりすることができる。</li> <li>変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。</li> <li>移動を伴うつなぎのボールに対応して、攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にトスを上げることができる。</li> <li>仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。</li> <li>ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。</li> <li>チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。</li> </ul> <p>〈連携した動き〉</p> <p>②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手の攻撃に応じて、仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動することができる。</li> <li>仲間と連携した攻撃の際に、ポジションに応じて相手を引き付ける動きをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した運動について、チームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。</li> <li>①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。</li> <li>練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。</li> <li>練習やゲームを行う場面で、チームや自己の活動を振り返り、よりよいマナーや行為について提案している。</li> <li>②チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。</li> <li>チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。</li> <li>③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。</li> <li>球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技の学習に主体的に取り組もうとしている。</li> <li>フェアなプレイを大切にしようとしている。</li> <li>作戦などを話し合う場面で合意形成に貢献しようとしている。</li> <li>①一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</li> <li>②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。</li> <li>危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。</li> </ul>

※丸数字は、本単元で設定した「単元の評価規準」を示しています。

6. 指導と評価の計画

内容のまとめり(入学年次の次の年次以降【2年次】 E 球技)

単元 球技(ネット型:バドミントン)

時	1	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	13	14	15					
学習の流れ	0	場の準備 ・ 健康観察 ・ 本時の学習内容とめあての確認 ・ 準備運動																		
	10	オリエンテーション	○基本ストローク ・ドライブ ・クリア ・ハイクリア ・ヘアピン	○基本ストローク ・ドロップ ・スマッシュ	○基本ストローク (アップ&ドリル)						○フォーメーションを考える① ・ローテーションの練習			○フォーメーションを考える② ・課題と解決方法を探る ・課題解決練習		○フォーメーションを考える③ ・グループで互いに指摘し合う			リーグ方式会議	○リーグ戦の実施
	20	態①	○サーブ	技①	○前後の組み立てラリー						知①	思①	技②	知②	思②	態②	(例①) ・3パートのリーグ戦 ・パート別順位での入替 ・順位決定戦 (例②) ・全チーム総当たり ・上位チームによるプレーオフ ・上位チーム以外はプレーオフを盛り上げる運営			
	30	ストローク確認(動画等を活用)	○ショート ・ロング ・ドライブ	○コート縦半分を使用し、前後に相手を動かす。 ②習熟度に応じてフライトの種類を制限する。	思③	○入れ替わりゲーム						○ダブルスゲーム								
	40	試しのラリー	○簡易ゲーム ・4人対4人のラリーゲーム	試しのゲーム	*タブレットでの動画撮影 *考察						*タブレットでの動画撮影 *モデルプレーの視聴(電子黒板等) *考察									
50	本時のまとめ ・ 振り返り ・ 次時の確認																			
評価機会	知							①					②							
	技									①				②						
	思・判・表							①			③	②								
	態					①									②					
単元の評価規準	知識	①球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ②課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、学習した具体例を挙げている。																		
	技能	①シャトルを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。 ②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。																		
	思・判・表	①課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。 ②チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。 ③体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。																		
	態度	①一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ②仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。																		

この「指導と評価の計画」により、  
「何をいつ教えて、どのように評価するのか」を一目でわかるようにします。  
 さらに、これにより先生方御自身も、無理のない効果的な指導や評価の計画が立てられ、教師の授業改善や生徒の学習改善につなげることが出来ます。

作成については、本ハンドブック巻頭ページに記載していますので、そちらを参考にしてください。

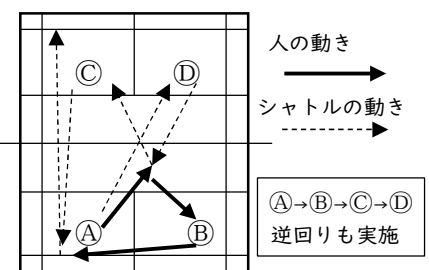
## 7. 本時の学習

(1) 本時のねらい

説明④

- ・ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きができる。
- 【知識及び技能】

(2) 本時の展開（8時間目／15時間中）

段階	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価
はじめ	1 場の準備、挨拶、健康観察 2 本時の学習内容とめあての確認	・電子黒板で本時の学習内容を確認し、本時のめあてを学習カードに記入するように指導する。
	めあて 『空いた空間を埋める意識をもって、効率よく空間をカバーしよう』	説明⑤
なか	3 準備運動 ・ペアや個人の計画で実施 4 基本ストローク練習 ・ストロークのドリル ・フットワーク ※前後への移動は大きく	・運動に必要な準備運動や補助運動について、自己またはペアで計画した内容が適切か観察し指導する。 ・ペアの課題にあった練習内容を考えさせる。  *左右の移動は他ペアとの接触があるため、安全面を確認させる。
	5 フォーメーションを考える① ・グループ練習 ○「空間をカバーして守備のバランスを維持する」  <予想される課題> 説明⑥ ・どのタイミングで移動するのかわからない。 ・どこに戻るのか、位置取りがわからない。	・ローテーションのタイミングを「はい」、「今」などの言葉を使って指導する。 ・空間のカバーなど移動に重点を置いて練習させる。  <指導のポイント> *空間が空いたことを認識させる。 *パートナーの状態を意識させる。 *移動のタイミングを言葉で伝えさせる。 *動いた後、自分の戻る場所を理解させる。
まとめ	 <p>人の動き シャトルの動き A→B→C→D 逆回りも実施</p> <p>&lt;シャトルの動き&gt; A→D→A→C→B→相手コート ※次は左側からBサブスタート</p> <p>・動きの確認と修正 グループ学習で撮影された動画を確認し、修正や作戦に生かす。</p> <p>6 入れ替わりゲーム 例) どちらかのペアが3点先取したら、対戦を入れ替える。 負けたチームはもう一回（連続2回まで）</p> <p>7 本時の活動を振り返る</p> <p>8 次時の確認 9 体調確認、挨拶</p>	<p>&lt;運動が苦手な生徒への手立て&gt; 説明⑦ *タブレットを活用し、自分たちの動きを確認させながら指導する。 *シャトルを使わずにローテーションの動きを確認させる。また、シャトルは手投げでも良いとする。</p> <p>◆【知識・技能①】 各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 &lt;&lt;学習カード&gt;&gt;</p> <p>・ペアの特性を生かした守備を考え、局面に応じた作戦を立てさせる。 ・タイミングや動きについて指導し、良い点について全体に周知する。</p> <p>・対戦の入れ替わりを指示する。 ・攻撃では相手を崩して空間を作り、その空間を狙っているか、また、守備ではその空間をカバーできているか確認させる。</p>
まとめ	7 本時の活動を振り返る	・グループ活動の成果や課題を発表するように促す。 ・ICTを活用し、活動を振り返るように伝える。 ・今日のめあてを確認し、振り返りや気付きを学習カードに記入させる。 ・知識について学習カードに記入するように伝える。 ・次時の学習活動についてのねらい等を説明する。

## (2) 保健作成例 (※体育理論もこの形式で作成可能です)

### 第1学年 保健体育科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇曜日) 第〇校時

指導場所 1年〇組教室

指導学級 1年〇組 (計〇名)

指導者 教諭 T1〇〇 〇〇

教諭 T2〇〇 〇〇

#### 1. 単元名 (イ) 応急手当

#### 2. 単元について

##### (1) 教材について

中学校では「迅速かつ適切な応急手当は傷害の悪化を防止する」について実習を通して学習している。適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要がある。高等学校ではより総合的に理解させることにより、個人の取組に加えて社会的な取組がもとめられることを理解するとともに、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、表現することができる必要がある。

##### (2) 生徒の実態

高校生の時期は、疾病や傷害に対しての知識はあるものの、健康や体力に自信があることから、自分のこととしてとらえている生徒は少ない。また、安全な社会の実現に向けて、地域に呼びかけを行ったり、自治体などに働きかけたりする生徒も少ない。しかし、小・中学校における総合的な学習の時間や高校での総合的な探求の時間において、グループワークや課題解決型学習の取組が身に付いており、相互に話し合いや活動を行うことができている。

##### (3) 教師の授業への意図

個人及び社会生活において、様々な事故や災害が発生していることを踏まえ、応急手当の手順や方法を知識として習得するだけでなく、AEDの設置場所や把握、複数人数で対処することの有効性など、実践的な学習を通して理解したことをできるようにする。また、安全な社会を形成するために、事故防止に加え、発生に伴う傷害などの軽減について個人的・社会的それぞれの視点から考えさせることが重要である。

#### 3. 単元の目標

- (1) 応急手当について、実習を通して理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法など技能を身に付けることができるようにする。 【知識及び技能】
- (2) 安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 応急手当について、課題解決に向けた学習活動に主体的に取り組むことができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

4. 内容のまとめりごとの評価規準 ※場合によっては省略することも可です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わる。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</li> <li>適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当てを適切に行う技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>

5. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 応急手当の意義、手順や方法、さらに、自ら進んで行う態度、社会の救急体制の整備や、それを適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている。</li> <li>② 日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることについて、実習を通して理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、応急手当ができる。</li> <li>③ 心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、AEDなどを用いた心肺蘇生法ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 応急手当について、個人及び社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>② 安全な社会生活について、自他や社会の課題解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、筋道を立てて説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 応急手当について、課題解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>

単元の評価規準は、「内容のまとめりごとの評価規準」を確認し、「知識・技能」の評価規準は、解説の学習内容を踏まえ、「～が理解できるようにする」という部分は必ず取り上げて、漏れのないようにします。「思考・判断・表現」の評価規準は、解説の「例示」と実際の学習活動を踏まえて設定しましょう。

なお、ここでは、単元の設定時間を考慮し「課題発見と課題解決」「課題解決と表現」と二つ設定しています。また、保健分野では、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、保健分野の目標である「明るく豊かな生活を営む態度を養う」や「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（通称「改善等通知」：平成31年3月29日付け）の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえて、単元を通じて設定することになります。



ここまでの用語説明（保健編）

単元とは… 保健の場合、内容のまとめりをそのまま単元として捉える場合と、内容のまとめりをいくつかの単元に分けて単元設定する場合があります。

教材について… 教材の内容の概要や構成について記述します。解説において本内容が教材として、どのようにとらえられているかをしっかり確認しましょう。

また、中学校での学習内容や前学年等での内容との関連等について記述しましょう。

生徒の実態とは… 学習内容と関連する生徒の実態等を記述します。

教師の授業への意図とは… 教材において理解させなければならない学習内容や生徒の実態から、明らかになった問題点を解決するためにどのように指導をするかを記述します。

単元の目標とは… 当該学年で身に付けなければならない学習内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成すべき資質能力ごとに設定するものです。語尾は「～ができるようにする」として記載します。

## 6. 指導と評価の計画

時	主な学習内容・学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	
1	<p>応急手当の意義、手順や方法、さらに、自ら進んで行う態度、社会の救急体制の整備や、それを適切に利用することが必要であることについて理解したことを言ったり書いたりできるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の振り返りと本時のめあてを確認する。</li> <li>2. 応急手当の意義、手順や方法について理解する。</li> <li>3. 応急手当が必要な場面に遭遇したとき、どのような行動が必要になるかをグループで考え発表する。</li> <li>4. 本時の学習のまとめをする。</li> </ol>	①			<p>【知-①】                      応急手当の意義、手順や方法、さらに、自ら進んで行う態度、社会の救急体制の整備や、それを適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書き出したりしている内容を捉える。                      【観察・ワークシート】</p>
2	<p>応急手当について、個人及び社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見できるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の振り返りと本時のめあてを確認する。</li> <li>2. ペットボトル・紙に作成したAEDの本体とパッドを使用した心肺蘇生法の実習を2人1組で行う。</li> <li>3. 学習活動2から出た課題を挙げ、課題解決の方法について話し合う。</li> <li>4. 手順や方法について整理する。</li> <li>5. 本時の学習のまとめをする。</li> </ol>		①		<p>【思-①】                      応急手当について、個人及び社会生活と関連付けて、自他や社会の課題を発見している内容を捉える。                      【観察・ワークシート】</p>
③	<p>心肺停止状態においては、急速に回復可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、AEDなどを用いた心肺蘇生法ができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の振り返りと本時のめあてを確認する。</li> <li>2. 心肺蘇生法の実習を行う。</li> <li>3. グループでの課題を発表する。</li> <li>4. 本時の学習のまとめをする。</li> </ol>	③	②		<p>【知-③】                      心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、AEDなどを用いた心肺蘇生法ができる内容や状況を捉える。                      【観察・ワークシート】</p> <p>【思-②】                      安全な社会生活について、自他や社会の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、筋道を立てて説明している内容を授業後に評価する。                      【ワークシート】</p>
4	<p>日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることについて、実習を通して理解したことを言ったり書いたりしているとともに、応急手当ができるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の振り返りと本時のめあてを確認する。</li> <li>2. どのような場面で傷害や、熱中症などの疾病が起こりやすいかをまとめる。</li> <li>3. 身近にある物を使用して止血・固定などの基本的な応急手当について実習する。</li> <li>4. 本時の学習のまとめをする。</li> </ol>	②		①	<p>【知-②】                      日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることについて、実習を通して理解したことを言ったり書き出したりしているとともに、応急手当ができる内容や状況を捉える。                      【観察・ワークシート】</p> <p>【態-①】                      応急手当について、課題解決に向けた学習を主体的に取り組もうとしている内容を捉える。                      【観察・ワークシート】</p>

「主な学習内容・学習活動」の欄には、学習のねらいを記述するとともに、生徒の学習活動の主なものを記述します。

※本ハンドブックの授業実践例（体育理論・保健）については、文字の大きさを優先しているため、様式を変更して掲載しています。

また、「評価規準」の欄には、「5. 単元の評価規準」で示した評価規準を単元のどの学習活動で評価するのかが分かるように観点ごとに番号で示します。「評価方法」の欄には、評価規準に基づいて、生徒の学習の状況の評価する方法を具体的に示します。1単位時間に評価する項目は原則一つ、多くても二つまでとします。

## 7. 本時の学習

### (1) 本時のねらい

- ・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED（自動体外式除細動器）の使用などが必要であること及び方法や手順について、実習を通して理解し、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。 【知識及び技能】
- ・安全な社会生活について、自他や社会の課題解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

### (2) 展開（3/4時間）

段階	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価
はじめ	1 前時までの学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業では、中学校での実習経験がどの程度できているかを確認しながら、自分たちの課題やその解決方法を考えている。学習を振り返りながら、それぞれの課題を明確にしておく。</li> <li>・前時の学習を振り返る際に、ポイントを確認できる資料を作成しておく。</li> </ul> <p>(例)・応急手当の一般的な手順</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手を置く位置や強さ、回数</li> </ul>
	2 心肺蘇生法を実施する上での課題を考える  <b>【予想される意見】</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・方法や手順の知識が定着していない</li> <li>・的確な方法で実施できていない</li> <li>・経験不足・恐怖心</li> </ul> </div>	
めあて『心肺蘇生法の意義や手順を理解した場の設定に応じた速やかで的確な実施や安全な社会づくりについて、自他の課題を解決するための説明ができるようになる』		
なか	3 心肺蘇生法の実習を行う ○実習を通して理解を深め、AEDを用いて心肺蘇生法ができる。  ①10人グループをつくる ・実習者と評価者に5人ずつ分かれる。  ②実習をする ・実習班は5人組で役割を交替しながら行う。 (役割) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             実施者2名、AED搬送、救急要請、撮影（振り返りのための撮影係）           </div> ③相互評価をする ・評価者は実習者に課題を伝える。 ・評価した内容をホワイトボードに書く。 ・実習者は評価内容を班で共有する。  ④実習班と評価班を交替する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習者、評価者のペアで前時の実習での課題を意識して行えるよう、資料を確認することを伝える。</li> <li>・評価者は、学習カードを使用して評価する際に、手順や方法の確認だけにならないよう留意する。</li> <li>・役割を事前に決めておくよう指導しておく。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的な意見とし、改善を図りやすい指摘を行わせる。</li> <li>・実習者に簡単な感想を伝えた後、班のホワイトボードに課題を書き込むよう伝える。</li> <li>・対話が進んでいない場合は、気付いていないポイントを伝える。</li> <li>・対話が進んでいる班の意見を全体場で取り上げて、他の班に気付かせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #4a7ebb; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>◆【知識・技能③】 《観察・学習カード》</b> </div>
	4 グループでの課題を発表する。	
まとめ	5 本時のまとめをする ○傷病者を助けるために、自分たちにできることは何か、理由も含めて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの発表を聞かせ、共感するような声かけをする。</li> <li>・筋道を立てて説明したり、書き出したりしている内容を評価する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid #4a7ebb; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>◆【思考・判断・表現②】 《観察・学習カード》</b> </div>



### (3) 各項目における説明

#### 説明① 「内容のまとめりごとの評価規準」について

内容のまとめりごとの評価規準については、解説中にある各内容のまとめりごとの(1)知識及び技能(運動)、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等について示された指導内容や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P.133~P.144)を参考に作成します。

なお、場合によっては省略することも可としています。

#### 説明② 「全ての単元の評価規準」について

本単元における「内容のまとめりごとの評価規準」(参考:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P.133~P.144)を確認し、実際の授業や生徒の実態に即して、例示を基に単元の評価規準を作成します。(配布フォーマットに例示を基に作成した全ての評価規準を掲載)

体育では、「内容のまとめり」(その次の年次、それ以降の年次の2年間)を通して、「何を指導し、何を評価するのか」という見通しが持てるように、「その次の年次(第2学年)」で使用する評価規準(丸数字)と「それ以降の年次(第3学年)」で使用する評価規準(丸数字以外の小文字)を「5. 全ての単元の評価規準」として、両方記載しています。

※本ハンドブック指導案例は「その次の年次(第2学年)」であるため(丸数字)としています。

#### 説明③ 「指導と評価の計画」について

単元において、いつ、何を指導し、どこで、何を評価するのかをまとめた表となり、「単元構造図」とも呼ばれます。授業実施の際は、各単元における計画を作成し、効果的な指導と適切な評価につなげるために作成します。

なお、研究授業で作成される指導案の略案については、「年間指導計画表」、「指導と評価の計画」、「本時の学習」の三つを作成することが必要となります。

#### 説明④ 「ねらい」について

本ハンドブックでは、本時に指導する内容についての「ねらい」を設定します。また、『「ねらい」とは、育みたい資質・能力を生徒の姿から捉えたもの』とし、生徒自身の姿を表しています。そのため、教師側の「ねらい」としての「~ができるようにする」ではなく、生徒自身としての「~ができる」としています。

#### 説明⑤ 「めあて」について

本ハンドブックでは、『「めあて」とは、生徒自身が具体的に分かりやすい学習の見通しを持ち、意欲を高めるもの』としています。「ねらい」と「めあて」どちらも生徒自身の姿から捉えたものになりますが、「ねらい」を踏まえた上で、より分かりやすくしたものと捉えて設定してください。

#### 説明⑥ 「予想される課題」について

「ねらい」や「めあて」を実現するにあたって、予想される課題と指導のポイントを準備しておきます。

#### 説明⑦ 「運動が苦手な生徒への手立て」について

生徒の実態から、あらかじめ運動の苦手な生徒への手立てを設定しておきます。

# 5 学習指導要領解説の 読み方

## 5 学習指導要領解説の読み方について

### (1) 「内容のまとめり」についての理解

保健体育科における「内容のまとめり」とは、要領の「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化・整理したものです。

高等学校における、内容のまとめりは以下のようになっています。

第1 体育
[入学年次]
A 体づくり運動
B 器械運動
C 陸上競技
D 水泳
E 球技
F 武道
G ダンス
H 体育理論 (1)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展
[入学年次の次の年次以降]
A 体づくり運動
B 器械運動
C 陸上競技
D 水泳
E 球技
F 武道
G ダンス
H 体育理論 (2)運動やスポーツライフの効果的な学習の仕方 (3)豊かなスポーツライフの設計の仕方
第2 保健
(1) 現代社会と健康
(2) 安全な社会生活
(3) 生涯を通じる健康
(4) 健康を支える環境づくり

※入学年次における、A 体づくり運動と入学年次の次の年次以降における、A 体づくり運動は別の内容のまとめりである。また、入学年次または入学年次の次の年次以降における、A 体づくり運動と B 器械運動などがそれぞれの内容のまとめりである。

(2) 単元についての理解

答申では「単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的な一まとまりのこと」としています。

表7 《体育領域の単元について(例)》

	内容のまとまり	単元	小単元
運動に関する領域	(入学年次) E 球技	ア ゴール型：バスケットボール	/
		イ ネット型：バレーボール	
		ウ ベースボール型ソフトボール	
	(入学年次) F 武道	ア 柔道	
		イ 剣道	
	(入学年次の次の年次以降) E 球技	ア ゴール型：バスケットボール	
		イ ネット型：バレーボール	
		ウ ベースボール型：ソフトボール	
(入学年次の次の年次以降) F 武道	ア 柔道		
	イ 剣道		
知識に関する領域	H 体育理論 (入学年次)	・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	(ア)～(エ)を小単元とすることもできる
	// (その次の年次)	・運動やスポーツの効果的な学習の仕方	(ア)～(エ)を小単元とすることもできる
	// (それ以降の年次)	・豊かなスポーツライフの設計の仕方	(ア)～(エ)を小単元とすることもできる

「保健」では、「内容のまとまり」をそのまま「単元」として捉える場合と、「内容のまとまり」をいくつかの「単元」に分けて単元設定する場合が想定されます。本ハンドブックでは、いくつかの「単元」に設定をしています。

表8 《保健の単元の設定例》

内容のまとまり	単元例	学年	時数
(1) 現代社会と健康	(ア)健康の考え方	入学年次	4
	(イ)現代の感染症とその予防	入学年次	5
	(ウ)生活習慣病などの予防と回復	入学年次	4
	(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	入学年次	7
	(オ)精神疾患の予防と回復	入学年次	4
(2) 安全な社会生活	(ア)安全な社会づくり	入学年次	5
	(イ)応急手当	入学年次	6
(3) 生涯を通じる健康	(ア)生涯の各段階における健康	その次の年次	7
	(イ)労働と健康	その次の年次	4
(4) 健康を支える環境づくり	(ア)環境と健康	その次の年次	5
	(イ)食品と健康	その次の年次	5
	(ウ)保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	その次の年次	6
	(エ)様々な保健活動や社会的対策	その次の年次	3
	(オ)健康に関する環境づくりと社会参加	その次の年次	5

※保健の履修学年については、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させることとなっています。また、単元設定および履修学年は各学校において検討の上決定します。

### (3) 各科目の内容についての理解

#### ① 体育の記載について

解説では、「体育」は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されています。

「A 体づくり運動」、「B 器械運動」、「C 陸上競技」、「D 水泳」、「E 球技」、「F 武道」及び「G ダンス」であり、知識に関する領域は、「H 体育理論」です。

<運動に関する領域> A 体づくり運動～G ダンスの領域

各領域の内容は、運動に関する領域では、以下のように示されています。

- (1) 知識及び技能(「体づくり運動」は知識及び運動)
- (2) 思考力、判断力、表現力等
- (3) 学びに向かう力、人間性等

<知識に関する領域> H 体育理論の領域

○ 内容のまとめりごとに示した指導内容

- (1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

○ 具体的に示した指導内容

- ア 知識では、(ア)、(イ)、(ウ)、(エ)に特に具体的な指導内容が示されています。
- イ 思考力、判断力、表現力等
- ウ 学びに向かう力、人間性等

#### ② 保健の記載について

解説では、保健は、内容のまとめりとして四つの内容で構成されています。

- (1) 「現代社会と健康」
- (2) 「安全な社会生活」
- (3) 「生涯を通じる健康」
- (4) 「健康を支える環境づくり」

「ア 知識」として、内容のまとめりごとの指導内容を示した上で、(ア)、(イ)・・・に具体的な指導内容が示されています。また、「イ 思考力、判断力、表現力等」の内容は示されていますが、「ウ 学びに向かう力、人間性等」については示されていません。

※なお、体育の各領域、保健それぞれのページ後半に、「内容の取扱い」が示されています。

ここには、取り扱う学年、指導における配慮(考慮)の内容が示されています。必ずお読みください。

(4) 記載内容の説明

① 体育（解説 P.42～P.196）

ア 運動に関する領域（例：E 球技【入学年次】）

領域名 E 球技 【入学年次】

球技は、ゴール型、ネット型およびベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

領域の特性

中学校では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることをねらいとして、第1学年及び第2学年は、「基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする」ことなどを、第3学年は、「作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームが展開できるようにする」ことなどを学習している。

中学校と高等学校の学習内容の接続

高等学校では、これまでの学習を踏まえて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する」ことなどが求められている。

したがって、入学年次では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。その際、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。また、球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や朝鮮を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。

「知識及び技能」、  
「思考力、判断力、表現力等」  
「学びに向かう力、人間性等」の内容  
※以下、(1)、(2)、(3)  
の指導内容となります。

なお、指導に際しては、知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習させることや、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の内容をバランスよく学習させるようにすることが大切である。

指導上の留意事項  
(すべての領域で同じ)

(1) 知識及び技能

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技能の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。

内容のまとめりにおける指導内容

- ア ゴール型では、～中略～ 攻防をすること。
- イ ネット型では、～中略～ 攻防をすること。
- ウ ベースボール型では、～中略～ 攻防をすること。

技能の指導内容  
(各单元における技能の具体的な指導内容になります)

## ○知識

技術の名称や行い方では、球技の各型の ~中略~ ようにする。

体力の高め方では、球技のパフォーマンスは、 ~中略~ ようにする。

運動観察の方法では、ゲームの課題に応じて、 ~中略~ ようにする。

などの例では、 ~中略~ ようにする。

内容の解説

指導に際しては、動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることや知識を活用し課題を発見・解決するなどの「思考力、判断力、表現力等」を育む学習につながるよう、汎用性のある知識を精選したうえで、知識を基盤とした学習の充実を図ることが大切である。

なお、中学校で取り上げた「特性や成り立ち」、「技術の名称や行い方」、「関連して高まる体力」などについての理解が不十分な場合は、中学校学習指導要領解説で示した指導内容を改めて取り上げるなどの配慮をすること。

指導上の留意点

### <例示>

- ・球技の各型の各種目において用いられる ~中略~ があること。
- ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切 ~中略~ であること。

例を示しています。  
(これをもとに、評価  
規準を設定します)

## ○技能

※ 内容の解説

※ 例示

### (2) 思考力、判断力、表現力等

※ 内容のまとまりにおける指導内容

※ 内容の解説

※ 例示

### (3) 学びに向かう力、人間性等

※ 内容のまとまりにおける指導内容

※ 内容の解説

※ 例示

内容のまとまりにお  
ける「思考力、判断  
力、表現力等」  
「学びに向かう力、  
人間性等」の内容  
について、それぞれ  
・指導内容  
・内容の解説  
・例示  
が記載されています。

## イ 知識に関する領域

### 領域名 H 体育理論

体育理論の内容は、中学校体育理論の学習成果を踏まえ、「する、みる、支える、知る」といって生涯にわたる豊かなスポーツライフを卒業後にも主体的に実践できるようにするため、主に現代におけるスポーツの意義や価値、科学的、効果的なスポーツの実践、豊かなスポーツライフの設計等に係る内容で構成されている。

体育理論の内容

特に、高等学校では、スポーツから得られて恩恵とスポーツについての課題の双方から、多角的に思考し判断し表現する学習を通して、個人がスポーツ文化を創造する主体となっていることに気付くことを目指している。

生徒に身に付けさせたい内容

なお、運動に関する領域との関連で指導することが効果的な内容については、各運動に関する領域の「(1) 知識及び技能」で扱うこととしている。

運動に関する領域との関連

指導に際しては、運動に関する領域において、具体的な知識と汎用的な知識との往還を図るなどして、知識を効果的に理解することができるようにするとともに、体育理論、体づくり運動及び保健の学習成果を関連させ、それぞれの領域の学習に生かすこととしていることから、その基盤となる体育理論で学ぶ知識を確実に身に付けておくことが重要である。

指導上の留意事項

- 1 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展（入学年次の取り扱い）
- 2 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（入学年次の次の年次の取り扱い）
- 3 豊かなスポーツライフの設計の仕方（それ以降の年次の取り扱い）

内容のまとめり

### ア 知識

(\*) ○○○○ ～ 活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(要領の内容)

指導の内容  
(\*)について  
(1) 入学年次  
(2) その次の年次  
(3) それ以降の年次

内容のまとめり

(ア)

⋮

(エ)

単元の構造図

### イ 思考力, 判断力, 表現力等

(要領の内容とその解説)

<例示>

それぞれの  
・指導内容  
・内容の解説  
・例示  
が記載されています。

### ウ 学びに向かう力, 人間性等

(要領の内容とその解説)

<例示>



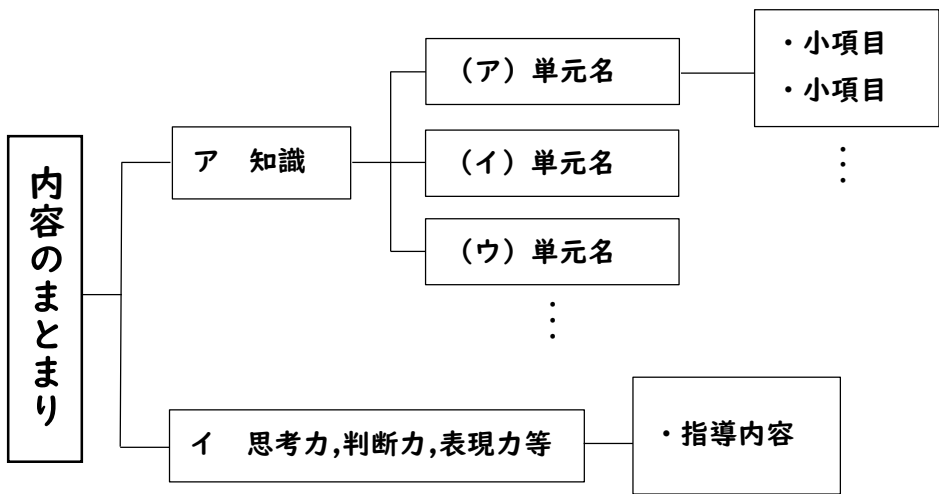
② 保健（解説 P.197～P.216）

単元名（１）～（４）

(要領の内容)

〇〇〇～中略～〇〇〇を理解するとともに、〇〇～中略～〇〇〇できるようにする必要がある。

このため(,)本内容は,(単元に関する内容の知識(及び技能))を中心として構成している。



単元における  
現状・課題  
「知識及び技能」  
「思考力,判断力,  
表現力等」の内容

単元の構成内容  
※単元の構造図に  
つながります。

単元の構造図

「知識及び技能」  
「思考力,判断力,  
表現力等」の内容  
と例示について記  
載されています。

**ア 知識**

(ア) 単元名

㊦ 小単元

(知識の内容の解説)

**イ 思考力, 判断力, 表現力等**

(思考力,判断力,表現力等の内容の解説)

<例示>

・  
・

# 6 学習指導要領解説の 理解と学習評価

## 6 学習指導要領解説の理解と学習評価について

(1) 体育、保健の内容及び構成について

【体育】

領域	領域の内容		新たに示された内容
【A 体づくり運動】	ア 体ほぐしの運動	(1) 知識及び運動 (生涯スポーツにつながる知識含む)	従前の「体力を高める運動」を「実生活に生かす運動の計画」として新たに示した。
	イ 実生活に生かす運動の計画	(2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	
【B 器械運動】	ア マット運動	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	※従前どおり。
	イ 鉄棒運動		
	ウ 平均台運動		
	エ 跳び箱運動		
【C 陸上競技】	ア 短距離走・リレー、 長距離走又はハードル走	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	バトンの受渡しの指導内容を新たに示した。
	イ 走り幅跳び、走り高跳び、三段跳び		
	ウ 砲丸投げ、やり投げ		
【D 水泳】	ア クロール	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	「泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること」及び「入学年次の次の年次以降は、安全を十分に確保した上で、学校や生徒の実態に応じて段階的な指導を行うことができること」を新たに示した。
	イ 平泳ぎ		
	ウ 背泳ぎ		
	エ バタフライ		
	オ 複数の泳法で泳ぐ又はリレー		
【E 球技】	ア ゴール型	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	※従前どおり。
	イ ネット型		
	ウ ベースボール型		
【F 武道】	ア 柔道	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること、学校や地域の実態に応じて、相撲、なぎなた、弓道に加えて、空手道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修できることを新たに示した。
	イ 剣道		
【G ダンス】	ア 創作ダンス	(1) 知識及び技能 (生涯スポーツにつながる知識含む) (2) 思考力、判断力、表現力等 (3) 学びに向かう力、人間性等	※従前どおり。
	イ フォークダンス		
	ウ 現代的なリズムのダンス		
【H 体育理論】	(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展	ア 知識 イ 思考力、判断力、表現力等 ウ 学びに向かう力、人間性等	従前の「(1)スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴」を「(1)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」に一部改めた。
	(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方		
	(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方		

○ 【A 体づくり運動】から【G ダンス】の「知識」には、技の名称や行い方等の具体的な知識と、体力の高め方や課題解決の方法などの生涯スポーツにつながる汎用的な知識（何のために行うのか）があります。※「知識＝運動の行い方」だけではないことに注意してください。

○ 解説に「学びに向かう力、人間性等」を具体的に例示で示しているのは、全教科の中で体育分野だけとなっています。

【保健】

	内容	ポイント及び新たに示された内容
現代社会と健康	<p>ア 知識</p> <p>(ア) 健康の考え方</p> <p>(イ) 現代の感染症とその予防</p> <p>(ウ) 生活習慣病などの予防と回復</p> <p>(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</p> <p>(オ) 精神疾患の予防と回復</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等</p>	<p>生活習慣病などの予防と回復にがんを取り上げるとともに、精神と健康の内容を改善し、精神疾患の予防と回復の内容を新しく示し、より現代における健康課題に対応することとした。</p> <p>従前示されていた「交通安全と応急手当」については、新しい内容のまとめである「安全な社会生活」に移動することとした。</p>
安全な社会生活	<p>ア 知識及び技能</p> <p>(ア) 安全な社会づくり</p> <p>(イ) 応急手当</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等</p>	<p>「安全な社会生活」については、小学校、中学校の系統性及び安全に関する指導を重視する観点から新たに示すこととした。</p> <p>従前「現代社会と健康」に示されていた「交通安全と応急手当」に関する内容を重視し、交通安全を含めた安全な社会づくりや心肺蘇生法等の応急手当についての技能の内容を明確にした。</p>
生涯を通じる健康	<p>ア 知識</p> <p>(ア) 生涯の各段階における健康</p> <p>(イ) 労働と健康</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等</p>	<p>従前「社会生活と健康」に示されていた「労働と健康」について、生涯の各段階と関連が深いことから、ここに位置付けた。</p> <p>これまで「生涯を通じる健康」に示されていた保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの活用や様々な保健活動に関する内容は、自然環境、社会環境を含めた「健康を支える環境づくり」の内容に移動した。</p>
健康を支える環境づくり	<p>ア 知識</p> <p>(ア) 環境と健康</p> <p>(イ) 食品と健康</p> <p>(ウ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関</p> <p>(エ) 様々な保健活動や社会的対策</p> <p>(オ) 健康に関する環境づくりと社会参加</p> <p>イ 思考力、判断力、表現力等</p>	<p>社会環境に関することとして、保健・医療制度及び地域の保健・医療機関などの適切な活用、我が国や世界において様々な保健活動及び地域の保健・医療機関などの適切な活用、我が国や世界において様々な保健活動や対策などが行われていることについての内容を、ここに位置付けた。</p> <p>さらに、健康に関する環境づくりと社会参加に関する内容を新たに位置付けた。</p>

○保健分野の指導に当たっては、以下の点に留意することが大切です。

- ・思考を深める発問の工夫・日常生活に関連が深い教材・教具を活用
- ・ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）
- ・心肺蘇生法などの実習や実験、課題学習などを取り入れる
- ・保健・医療機関等の参画を推進・養護教諭、栄養教諭との連携・協力

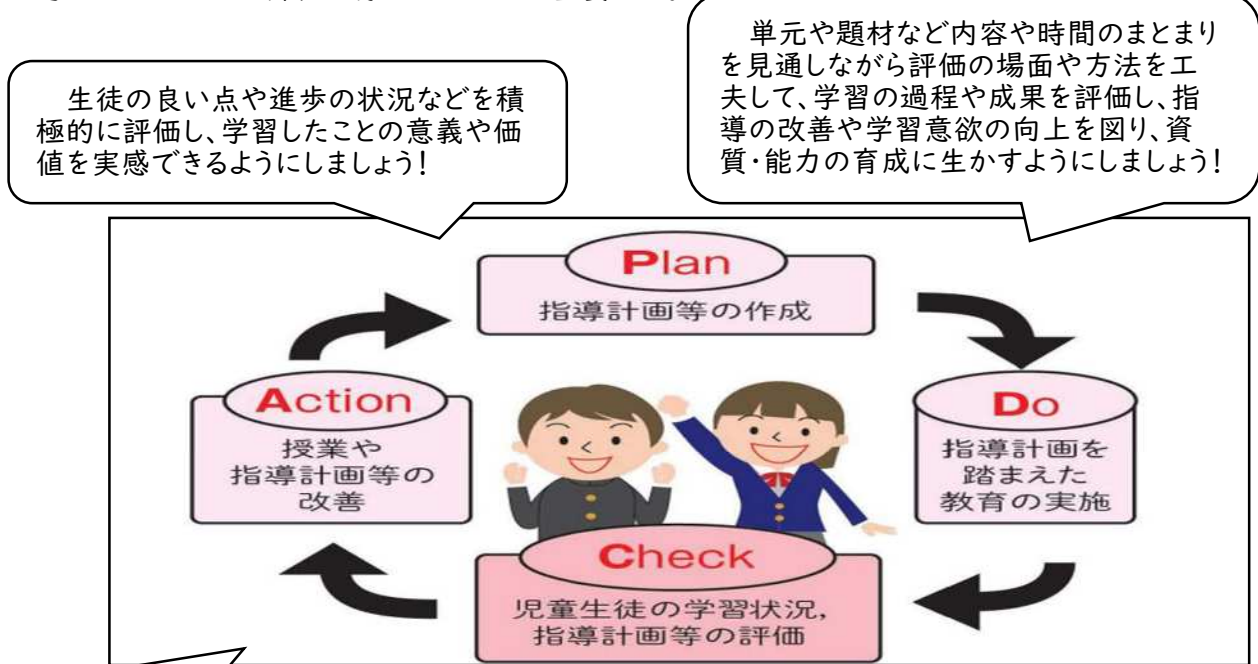
※実習を自ら行う活動を重視し、概念や原則といった指導内容を理解できるようにすること。

※実験は方法を習得するのがねらいではなく、仮設の設定、検証、解決の実証的な問題解決を行う活動を重視し、科学的な事実や法則といった指導内容を理解できるようにすることに主眼を置くこと。

(2) 学習評価について

① 学習評価の充実

学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視し、生徒が自分自身の目標や課題を持って学習を進めていけるように評価を行っていくことが重要です。



創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進しましょう!

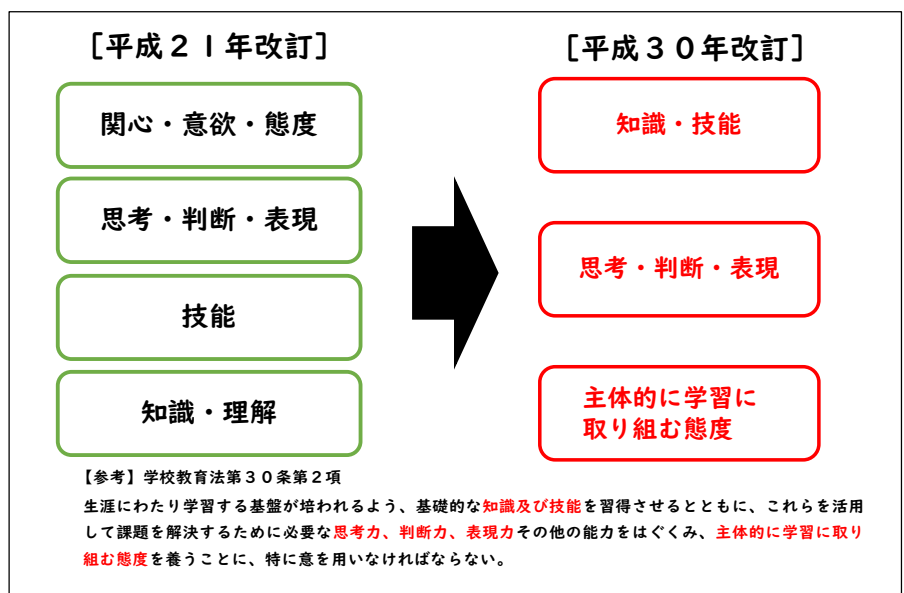
(高等学校学習指導要領第1章総則第三款教育課程の実施と学習評価 2 学習評価の充実及び文部科学省 国立教育研究所学習のあり方ハンドブック)

☞ 従って

- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
  - 教師の指導改善につながるものにしていくこと
  - これまで慣例として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
- この考え方を土台に評価のタイミングを考えていくことが大切です。

② 評価の観点の整理

観点別学習状況の評価については、小・中・高等学校を通じて4観点から3観点到に整理されました。

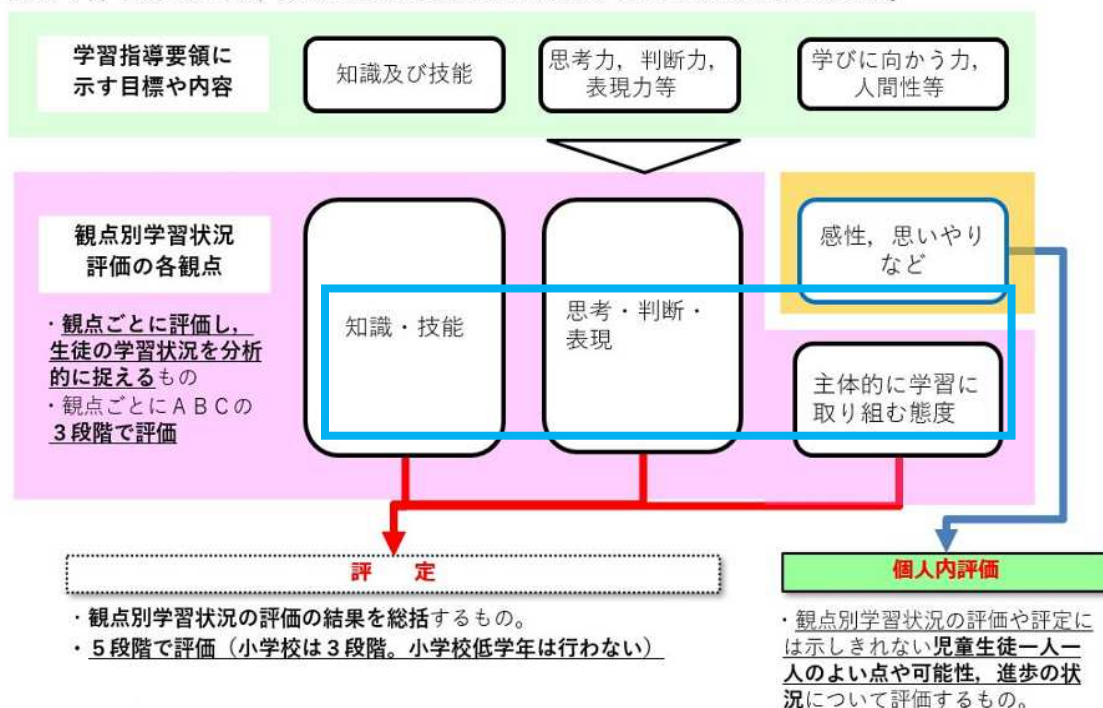


(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料)

### ③観点別学習状況評価について

#### ○各教科における評価の基本構造の図示

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料）

育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいて、学習指導要領の各教科等における目標や内容が再整理され、「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価それぞれの考え方は、以下のア〜ウのとおりとなる。

#### ○「各教科における評価の基本構造」を踏まえた3観点の評価の考え方

##### ア 知識・技能の評価について(各教科・科目においての捉え方です。)

###### <評価項目>

- 知識及び技能の習得状況について評価
- それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念などを理解したり、技能を習得したりしているかについて評価

###### <評価方法例>

- 事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテスト
- 実際に知識や技能を用いる場面を設け、内容を見取る（生徒の文章による説明内容を見取る）（各教科の内容の特質に応じて観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりして、内容を見取る）

## イ 思考・判断・表現の評価について

### <評価項目>

- 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けているか評価

### <評価方法例>

- ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを作成させたりして、その内容を見取る

## ウ 主体的に学習に取り組む態度の評価について

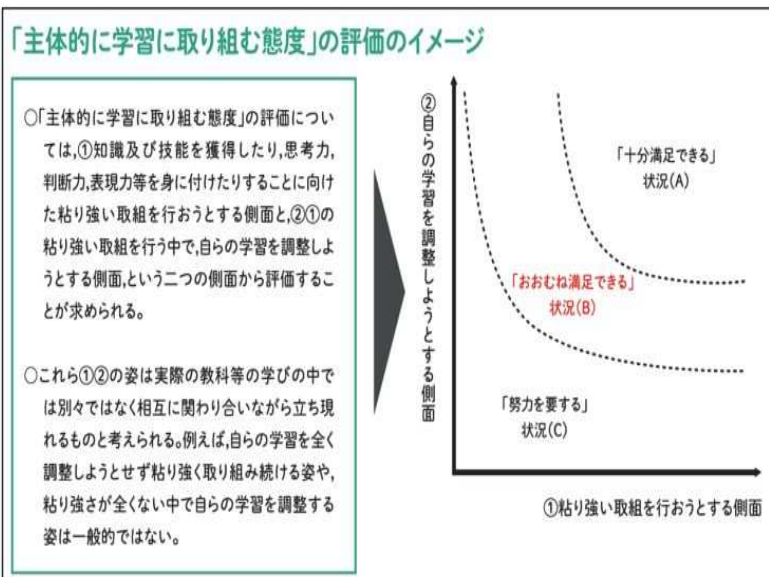
### <評価項目>

- 知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、①粘り強い取組を行おうとする側面と②その中で自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面で評価

### <評価方法例>

- ノートやレポート等における記述の内容
- 授業中の発言
- 行動観察
- 生徒による自己評価や相互評価等の状況や記述内容

※ただし、生徒の自己評価は、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして取り扱う



(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料)

※①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものなので、二つの側面が徐々に向上していくものと考えてください。

※なお、体育に関する科目においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、目標や内容に対応した学習評価が行われるようになっていきますので御注意ください。

(3) 評価規準作成時のポイント・文末表現について※評価規準表の文末表現を確認してください。

【体育】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識 例示の文末を「<u>～について、言ったり、書き出したりしている</u>」(a)あるいは「<u>～について、学習した具体例を挙げている</u>」(b)に変換するなどして評価規準を作成する。</p> <p>(a) 一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きな相違がないものに用いている。</p> <p>(b) 学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるものに用いている。</p> <p>○技能 例示の文末を「<u>～できる</u>」に変換するなどして、評価規準を作成する。</p>	<p>例示の文末を「<u>～している</u>」に変換するなどして、評価規準を作成する。</p>	<p>意思や意欲を育てるという情意面の例示に対応し、「<u>～しようとしている</u>」に変換するなどして、評価規準を作成する。</p> <p>ただし、健康・安全に関する例示については、意欲を持つことにとどまらず実践することが求められているものであることから、「<u>～確保している</u>」に変換するなどして、評価規準を作成する。</p>

【保健】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識 解説の「<u>～理解できるようにする</u>」と記載してある部分の文末を「<u>～について、理解したことを言ったり書いたりしている</u>」として、評価規準を作成する。</p> <p>○技能 解説の「<u>～できるようにする</u>」と記載してある部分の文末を「<u>～(行い方・対処)について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、(～が)できる</u>」として、評価規準を作成する。</p>	<p>解説における「2内容」の「思考力、判断力、表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際、[例示]に記載された内容を踏まえるとともに、実際の学習活動に合わせ、文末を「<u>～している</u>」として、作成する。</p>	<p>改善通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容を踏まえ、文末を「<u>～しようとしている</u>」として、評価規準を作成する。</p>



(4) 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括について

※ 「評定は各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、『観点別及び評定への総括』の考え方や方法」については、教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に十分説明し理解を得ることが大切です。

① 「知識・技能」における観点別学習状況の評価の総括の例

表9 年間指導計画(表4)選択Ⅳ武道(剣道)評価の総括時の検討例

単元名		選択Ⅳ				総括 (平均点)	
		武道(剣道)					
時間数		16					
項目		評価			規準数		
生徒 Y	知	A	B	A	3	A (2.67)	B (2.33)
		3	2	3			
	技	B	B	B	3	B (2.00)	
		2	2	2			

ア A、B、Cの組合せに基づいて総括する例

<この学校での事前の決定事項>

- (ア) それぞれの項目において、評価の一番多いものを総括評価とする  
 (イ) それぞれの項目において、A、B、Cとそれぞれ一つずつになった場合は、総括評価をBとする  
 (ウ) 「知識・技能」の総括評価において「知識の総括がA、技能の総括がB」の場合は、知識・技能の評価全てのABCそれぞれを合計し、ABCのうち最も多いものを評価とする。  
 (エ) (ウ)の評価において、ABCそれぞれの合計が同数となった場合は、いずれもBと評価する

→ この事前の決定事項を受けて、この学校では次のように評価します

- ・「知識」の評価は、A、B、Aとなり、「Aが二つ、Bが一つ」となっていることから、Aと評価しています。
- ・「技能」の評価は、B、B、Bとなり、「すべてB」となっていることから、Bと評価しています。
- ・「知識・技能」の総括は、「Aが2、Bが4」となっていることから、Bと総括しています。

イ A、B、Cを数値に表したものに基いて総括する例

<この学校での事前の決定事項>

- (ア) Aを3、Bを2、Cを1と数値化して設定する  
 (イ) 知識、技能のそれぞれの数値化した得点を合計し、規準数を用いて平均化する  
 (ウ) 総括において、知識と技能の合計点を知識と技能の総規準数を用いて平均化する  
 (エ) 以下の基準の例により評価をする

本事例で設定した総括の基準の例

$$A > 2.50 \quad 2.50 \geq B \geq 1.50 \quad 1.50 > C$$

→ この事前の決定事項を受けて、この学校では次のように評価します

- ・知識の評価は、A(3)、B(2)、A(3)となり、平均「2.67」となっていることから、Aと評価しています。
- ・技能の評価は、全てB(2)となり、平均「2.00」となっていることから、Bと評価しています。
- ・知識の合計「8」と技能の合計「6」を合わせて「14」となり、総規準数「6」で割ると平均「2.33」となっていることから、「知識・技能」の総括は、上記(エ)の基準からBと総括しています。

②観点別学習状況の評価の総括（5段階）の例

観点別学習状況の評価については、観点ごとにA、B、Cの3段階とすることが適当であるとされていますが、ここでは5段階（例 A<sup>o</sup>、A、B、C、C<sup>△</sup>）で評価し、総括する検討例を示しています。

表 10 年間指導計画の例(表4)それ以降の年次1学期の総括時の検討例

単元名		体づくり運動		体育理論		全領域選択 I (球技)				総括 (平均点)		評定			
時間数		5		3		18									
生徒 X	項目	評価		評価 基準数	評価		評価 基準数	評価				評価 規準数			
		B (3)	B (3)		A (4)	A (4)		B (3)	B (3)	A (4)					
生徒 X	知	B (3)	B (3)	2	A (4)	A (4)	2	B (3)	B (3)	A (4)		3	B (3.43)	3	
	技	/		/	/		/	A <sup>o</sup> (5)	A (4)	A <sup>o</sup> (5)		3	A (4.67)		
	思	A (4)	A (4)	2	A (4)		1	A (4)	B (3)	B (3)	B (3)	4	B (3.57)		
	態	B (3)		1	2学期に評価する		0	A (4)	A (4)	A <sup>o</sup> (5)		3	B (4.00)		

※この例では、体づくり運動をそれぞれの学期で評価しています

各学校において検討

A、B、Cを数値に表したものに基づいて総括する例

<この学校での事前の決定事項>

- (ア) A<sup>o</sup>を5、Aを4、Bを3、Cを2、C<sup>△</sup>を1と数値化して設定する
- (イ) 「知識・技能」の総括評価においては、1学期全ての知識、技能の評価を合計し、平均化する
- (ウ) 以下の基準の例により評価をする

本事例で設定した総括の基準の例  
 $A > 4.00$     $4.00 \geq B \geq 2.50$     $2.50 > C$

※詳細な評価内容は省きます

③学期をまたいで実施した体づくり運動の評価を2学期に集約する例

事例は1学期に前期として5時間、2学期に後期として5時間の計10時間の授業を計画しています。

また、各学期で行った評価を2学期の総括に含めることを事前に申し合わせ、集約しています。

単元名	体づくり運動 (1学期)		体づくり運動 (2学期)		観点数
観点	①		②	③	
生徒イ	思考・判断・表現	A		A	B
		3		3	2
		B		B	B
		2		2	2

➔

単元名	体づくり運動 (総括)		
時間数	10		
項目	評価		観点数
生徒イ	知	B 2	
		B 2	
		A 3	
	技	/	
思	A 3	3	
	A 3		
	B 2		
態	A 3	3	
	B 2		
	A 3		

図 7 学期をまたいで実施した体づくり運動の評価を2学期に集約する例

(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を一部抜粋)

(5)用語解説

社会に開かれた教育課程	<p>「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育むこと。</p> <p>・ポイントとして次の三つが指摘される。</p> <div data-bbox="512 286 1417 495" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有します。</p><p>②これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成します。</p><p>③地域と連携・共同しながら目指すべき学校教育を実現します。</p></div>
教育課程	<p>学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を生徒の心身の発達に及び、授業時数との関連において総合的に組織した各学校の教育計画のこと。</p> <p>その際、学校の教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当が教育課程の編成の基本的な要素になる。</p>
カリキュラム	<p>学校教育の目的を達成するため、児童・生徒の発達・理解に合わせて教科・教材・学習経験を一定の範囲と順序で編成した教育計画のこと。</p>
カリキュラム・マネジメント	<p>各学校が設定する学校教育目標を実現するために、要領等に基づき教育課程を教科等横断的に編成し、それを実施・評価・改善を通して、計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと。</p> <p>・保健体育科における「カリキュラム・マネジメント」については、解説に次のように示されている。</p> <div data-bbox="512 1151 1209 1312" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>①3年間の見通しをもった年間指導計画の作成</p><p>②生徒の現状に基づいた計画の作成・実施・評価・改善</p><p>③地域の人的・物的資源等の活用</p></div>
内容のまとめ	<p>要領「2 内容」の項目等をそのまとめごとにより細分化したり、整理したりしたもの。(詳細は本ハンドブック P.106、107 に記載)</p>
単元	<p>各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとめのこと。(詳細は本ハンドブック P.108 に記載)</p>
内容のまとめの評価規準	<p>児童・生徒が資質・能力を身に付けた状況を表すために、要領「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」と変換したもの。なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、各学年(又は分野)の「1 目標」等を参考にして作成する必要がある。</p> <p>(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料を参考)</p>
全ての単元の評価規準	<p>解説に示されている、「各内容のまとめで示された例示全てについて作成される評価規準のこと。(詳細は本ハンドブック P.10、P.106 に記載)</p>

単元の評価規準	<p>全ての単元の評価規準の中から、当該単元において設定する評価規準のこと。 (詳細は本ハンドブック P.11 に記載)</p>
育成を目指す資質・能力の三つ柱	<p>児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の三つの柱を育成する。</p>
見方・考え方	<p>その教科ならではの物事を捉える視点や考え方。 (詳細は本ハンドブック P.2 に記載)</p>
診断的評価	<p>学習前の状況を診断的に評価すること。既習の学習内容やこれから行う運動に対するアンケート、単元最初の試しのゲームなど。</p>
形成的な評価	<p>学習の過程において、子供たちを見取り、つまずきを把握し、手立てを講じるために評価すること。</p>
総括的な評価	<p>学習の過程において生徒が学んだことを総合的に意味付け、授業の成果を単元の区切りとして評価すること。</p>
アクティブ・ラーニング	<p>教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者（児童、生徒、学生等）の能動的な学修（学問を修める）への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。</p> <p>・有効なアクティブ・ラーニングの方法として次のものが考えられる。</p> <div data-bbox="515 1227 1177 1379" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等、 教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、 グループ・ワーク等。</p> </div>
汎用的知識	<p>汎用的とは、いろいろな方面に広く用いることであり、体育における汎用的知識とは、関連して高まる体力等の生涯スポーツにつながる知識のことを指す。</p>
具体的知識	<p>体育における具体的知識とは、体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識のことを指す。</p>
豊かなスポーツライフ	<p>だれもが主体的に、それぞれの好みやレベル、ライフステージに応じて、好きな時に好きなスポーツを気軽に「する・みる・支える・知る」など、多様な関わり方でスポーツに接しながら生活すること。</p>
インクルーシブ教育	<p>全ての子供が国籍や人種、宗教、ジェンダー、障害のあるなしに関わらず一緒に学べる教育を目指すこと。</p>

# 7 引用・参考文献 サイト・アドレス


## 7 引用・参考文献 (順不同)


【書籍一覧】 ※URL紹介(QRコード含む)の引用・参考文献は、「【授業実践の参考となる資料及びサイト一覧】」に記載


- ・文部科学省 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編 文部科学省
- ・文部科学省 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編 文部科学省
- ・文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター  
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校保健体育 東洋館出版(2021)
- ・文部科学省 改訂「生きる力」を育む高等学校保健教育の手引 文部科学省(2021)
- ・文部科学省 学校の危機管理マニュアル作成の手引 文部科学省(2018)
- ・佐賀県教育委員会 高等学校保健体育なるほどハンドブック～保健体育に関する指導資料～  
佐賀県教育委員会(2013)
- ・中学校保健体育指導ハンドブック～保健体育に関する指導資料～ 佐賀県教育委員会(2022)
- ・佐賀県教育委員会 運動部活動における安全指導ハンドブック 佐賀県教育委員会(2020)
- ・佐藤豊 平成30年版 高等学校新学習指導要領の展開 保健体育編 明治図書出版(2018)


### 【授業実践の参考となる資料及びサイト一覧】


	<p>スポーツ庁 家庭での体育、保健体育の学習コンテンツ参考例</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00027.htm">https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00027.htm</a></p>	
<p>新学習指導要領に基づく中学校・高等学校向け「体づくり運動」「体育理論」リーフレット</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1306082.htm</a></p>		
	<p>NHK for school はりきり体育ノ介</p> <p><a href="https://www.nhk.or.jp/school/taiiku/harikiri/">https://www.nhk.or.jp/school/taiiku/harikiri/</a></p>	
<p>文部科学省 学校体育実技指導資料集第10集「器械運動指導の手引」</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1356152.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1356152.htm</a></p>		
	<p>文部科学省 学校体育実技指導資料集第4集「水泳指導の手引(三訂版)」</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1348589.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1348589.htm</a></p>	
<p>日本赤十字社 &gt; 講習の内容について &gt; 動画で見る一次救命処置</p> <p><a href="https://www.jrc.or.jp/study/safety/">https://www.jrc.or.jp/study/safety/</a></p>		
	<p>公益財団法人 日本ライフセービング協会</p> <p><a href="https://jla-lifesaving.or.jp/">https://jla-lifesaving.or.jp/</a></p>	

<p>文部科学省 学校体育実技指導資料第2集「柔道指導の手引（三訂版）」</p>	
<p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1334217.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1334217.htm</a></p>	

	<p>公益財団法人 全日本柔道連盟 安全で楽しい柔道授業ガイド</p>
	<p><a href="https://www.judo.or.jp/cms/wp-content/uploads/2023/02/judo_guidebook_reiwa04.pdf">https://www.judo.or.jp/cms/wp-content/uploads/2023/02/judo_guidebook_reiwa04.pdf</a></p>


<p>文部科学省 がん教育推進のための教材 がん教育プログラム 平成28年4月 (令和3年3月一部改訂)</p>	
<p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm</a></p>	


	<p>厚生労働省：こころの健康 気づきのヒント集</p>
	<p><a href="https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/101004-9.html">https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/101004-9.html</a></p>


<p>文部科学省 存外教育施設安全対策資料【心のケア編】 第2章心のケア各論</p>	
<p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/010.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/010.htm</a></p>	

	<p>一般社団法人 ファストエイド CPRトレーニングボトルプロジェクト</p>
	<p><a href="https://cpr-training-bottle.com/">https://cpr-training-bottle.com/</a></p>


<p>日本救急医療財団 心肺蘇生法委員会構成期間 救急蘇生法の指針2020（市民）</p>	
<p><a href="http://qqzaidan.jp/wp/wp-content/uploads/doc-shishin/shishin2020_shimin_hp.pdf">http://qqzaidan.jp/wp/wp-content/uploads/doc-shishin/shishin2020_shimin_hp.pdf</a></p>	


	<p>トヨタ トヨタの防災</p>
	<p><a href="https://toyota.jp/bousai/">https://toyota.jp/bousai/</a></p>


<p>環境省 熱中症予防情報サイト</p>	
<p><a href="https://www.wbgt.env.go.jp/">https://www.wbgt.env.go.jp/</a></p>	


	J S P O 日本スポーツ協会 「熱中症を防ごう」
	<a href="https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html">https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html</a>

神奈川県立総合教育センター体育指導センター 保健体育科授業づくりハンドブック	
<a href="https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/kenkyuhoukoku.html">https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/kenkyuhoukoku.html</a>	

	公益財団法人日本オリンピック委員会
	<a href="https://www.joc.or.jp/">https://www.joc.or.jp/</a>


スポーツ庁 オリンピック、パラリンピック紹介ページ 「乗り越える ～「スポーツの力」をすべての子供たちへ～」	
<a href="https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/jsa_00030.html">https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop08/list/jsa_00030.html</a>	

	スポーツ庁 スポーツ基本法
	<a href="https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1371905.htm">https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1371905.htm</a>

JAPAN SPORTS COUNCIL ホームページ 学校安全 Web	
<a href="https://jpnsport.go.jp/anzen/">https://jpnsport.go.jp/anzen/</a>	

本ハンドブック・各種書式及びワークシート作成例データサイト

ここにアクセス!

	佐賀県キッズサイト スポーツ大好き (さがんキッズ 体カアップホームページ)
	<a href="https://www.pref.saga.lg.jp/kids/list01965.html">https://www.pref.saga.lg.jp/kids/list01965.html</a>



## 高等学校保健体育指導ハンドブック作成委員会委員一覧

### 【委員】

◎吉田 浩	佐賀県立三養基高等学校教諭
○大竹 恭子	佐賀県立唐津青翔高等学校教諭
和泉 琢朗	佐賀県立鳥栖高等学校教諭
江頭 寛美	佐賀県立佐賀西高等学校教諭
大橋 晴海	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当指導主事
島松 奈生	佐賀県立嬉野高等学校教諭
田雑 洋輔	佐賀県立武雄高等学校教諭
野田知那美	佐賀県立唐津西高等学校教諭
畑田 光貴	佐賀県立小城高等学校教諭
福田 香織	佐賀県立唐津東高等学校教諭
藤山文比呂	佐賀県立牛津高等学校教諭
水田 鳴身	佐賀県立白石高等学校教諭
峯 勇太	佐賀県立唐津商業高等学校教諭
本村 晃一	佐賀県立伊万里実業高等学校教諭
山田 英吾	佐賀県立白石高等学校教諭

◎：委員長、○：副委員長、以下五十音順

(所属は令和5年3月現在)

### 【アドバイザー】

堤 公一	佐賀大学 大学院学校教育学研究科 准教授
------	----------------------

### 【事務局】

松尾 広樹	佐賀県教育庁保健体育課課長
笹谷留里子	佐賀県教育庁保健体育課指導主幹
黒土 進治	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当係長
兼武 巖	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当指導主事
大橋 晴海	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当指導主事
吉田 宗平	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当指導主事
瀬戸 隆英	佐賀県教育庁保健体育課学校体育・SAGA 部活担当指導主事

# 高等学校保健体育指導ハンドブック

～保健体育に関する指導資料～

■発行日 令和5年（2023年）3月

■編集・発行 佐賀県教育庁保健体育課

○〒850-8570 佐賀市城内一丁目1番59号

○TEL : 0952-25-7235

○FAX : 0952-25-7477

○MAIL : [hoken-taiiku@pref.saga.lg.jp](mailto:hoken-taiiku@pref.saga.lg.jp)